

生活感に関連する要因

—生活のゆとり感や社会関係の認知、
地域活動への参加との関連性—

石塚 優

地域課題研究

「地域づくり」に関する調査研究

2014年3月

地域づくり研究会
(地域課題研究実行委員会)

北九州市立大学都市政策研究所

生活感に関連する要因

- 生活のゆとり感や社会関係の認知、地域活動への参加との関連性 -

石塚 優

目次

はじめに

全体的生活満足感

- 1 全体的生活満足感
- 2 基本属性別全体的生活満足感

生活のゆとり感

- 1 全体の生活面のゆとり感
 - (1) 全体的な生活面のゆとり
 - (2) 経済面のゆとり
 - (3) 日常生活でのゆとり
- 2 基本属性別生活の全体的ゆとり感
 - (1) 経済面の全体的ゆとり
 - (2) 時間面の全体的ゆとり
 - (3) 居住空間面の全体的ゆとり
 - (4) 精神面の全体的ゆとり
 - (5) 総合的な生活のゆとり
- 3 全体的なゆとり不足の要素

地域活動や社会関係と全体的生活満足感の関連性

- 1 地域活動への参加と全体的生活満足感の関連性
- 2 社会関係の認知と全体的生活満足感の関連性

生活のゆとり感と全体的生活満足感の関連性

- 1 全体的ゆとり感と全体的生活満足感の関連性
- 2 経済面のゆとり感と全体的生活満足感の関連性
- 3 日常生活のゆとり感と全体的生活満足感の関連性
- 4 社会関係の認知と全体的生活満足感の関連性
- 5 地域活動への参加と全体的生活満足感の関連性

おわりに

- 1 「経済面の全体的ゆとり」と「精神面の全体的ゆとり」感
- 2 地域活動参加や社会関係の認知

資料

資料 1 調査の概要、資料 2 基本属性、資料 3 記述統計量、資料 4 調査票

生活感に関連する要因

- 生活のゆとり感や社会関係の認知、地域活動への参加との関連性 -

石塚 優

はじめに

全体的生活満足感は調査をすれば、概ね常に高いという結果で共通している。この生活満足感が常に高く維持され続ける要因が何か、何と関連性が強いのかを探るのが以下の目的である。生活の経済面に影響すると考えられる雇用形態に関する一連の法律としては、労働基準法（1947年）、男女雇用機会均等法（1985年）、改正男女雇用機会均等法（1997年）、改正労働基準法（1999年）、改正男女雇用機会均等法（2006年）等がある。これらの法律により男性労働者の保護規制（8時間労働）、女性の深夜労働の制限撤廃（1999年の改正労働基準法）などとともに、性別を理由とする差別の禁止や事業主の雇用管理上の措置義務としてセクシュアルハラスメントの防止、妊産婦の母性健康管理などの義務を含む内容へと変化している。

また、労働者派遣法（1986年）は、当初、基本的考え方として専門的業務、もしくは特別の雇用管理を要する業務に限定して、労働力需給を迅速に結びつけるための派遣を認める内容であり、適用対象業務を限定し、派遣期間にも一定の規制を設け、派遣による常用雇用の肩代わりを制限した。しかし、1996年、1999年と改正を重ねるに従い対象業務は拡大し、2003年改正時には、1999年改正では対象業務から外されていた「製造」業務を対象業務に含める規制緩和が行われた。派遣期間も最長1年から3年に延長され、拡大した対象業務で働く不安定な派遣労働者にとり、多少の安定をもたらす反面で、派遣労働者の長期雇用が常用雇用に抑制する働きが強くなるという問題を同時に含んでいる。

このため、今日の職場には正規職員の他に従来のパートタイマー、アルバイトの他に、請負社員、業務請負、再雇用など多様に存在し、派遣社員の3年、契約社員の1年更新で更新回数の制限付きなどの有期労働者が混在する。このような就業形態の多様化は不安定な就業形態をもたらし、加えて賃金の引き下げや増税などは生活のゆとり感や全体的生活満足感に影響が大きいと推測できる。

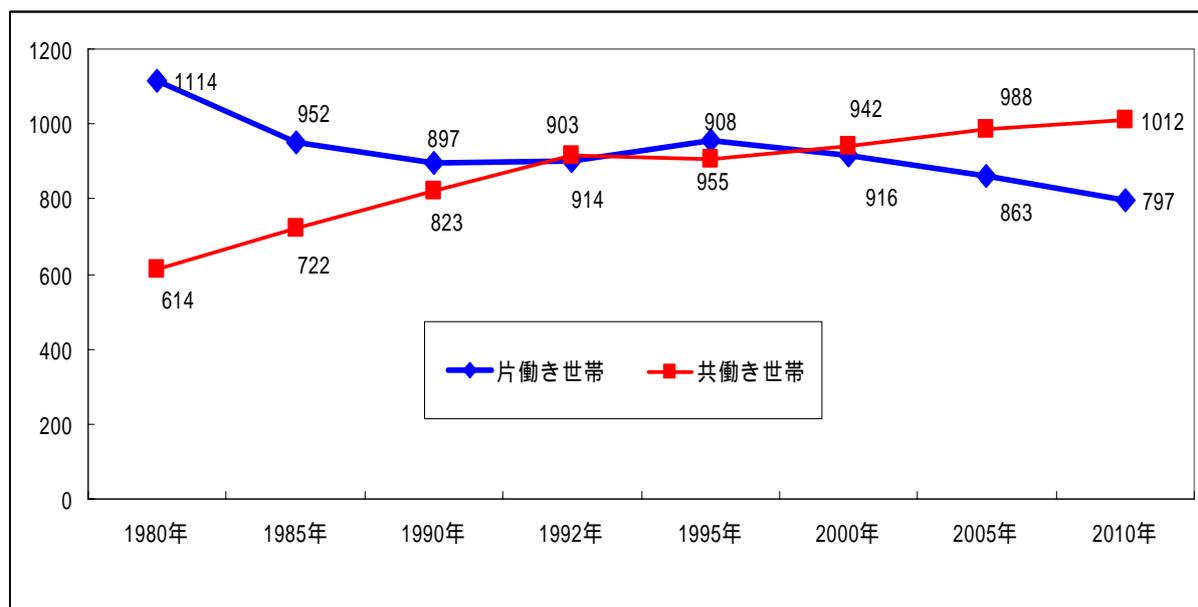
経済面では労働者派遣法による労務管理の変化をともなう不安定雇用とともに、改正男女雇用機会均等法を反映したのか、共働き世帯が増加し、1992年から2000年にかけて、夫婦のどちらか一方が働く世帯と世帯数では逆転した（図1参照）。これによる高所得世帯との所得格差が拡大した。

このような所得（就業形態）面での変化の他に社会情勢の変化もあり、市民の生活のゆとり感や全体的生活満足感は揺らいでいると推測し、調査票を用いてその現状を質問した。以下ではその回答結果を紹介する。さらに、単純な調査結果とともに、全体的生活満足感やゆとり感が何と関連しているかについても検討した。

調査の方法等と対象者の基本属性、調査票は末尾に資料として調査の概要とともに掲載している。

大まかな調査の概要は、対象者は 20～79 歳の市内に居住する人を選挙人名簿から所定の手続きを経て、無作為抽出(系統抽出)法により選んだ 1,500 人である。郵送により調査票を配送し、回答後に郵送により返送する留置法による。有効回収数は 564(有効回収率 37.6%)である。

図 1 共働き世帯、片働き世帯の推移 (万世帯)



総務省「労働力調査特別調査」2013 より作成

表 1 女性労働力率 (%)

	総数	未婚	有配偶	離別等
1975年	45.7	54.4	45.2	36.1
1980年	47.6	52.6	49.2	34.2
1990年	50.1	55.2	52.7	32.3
1995年	50.0	59.2	51.2	32.0
2000年	49.3	62.2	49.7	31.0
2005年	48.4	63.0	48.7	29.4
2010年	48.5	63.4	49.2	29.5

総務省統計局「就業構造基本調査」より作成

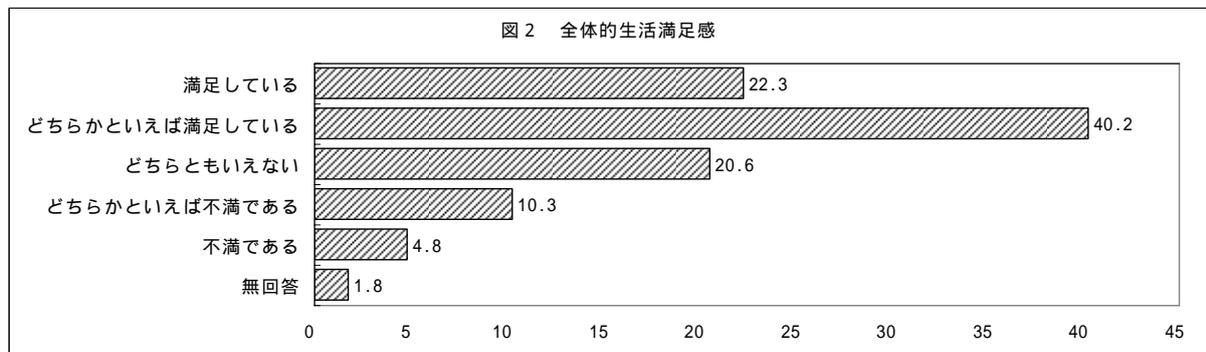
表 1 は女性の労働力率の推移を示しているが、総数では 1990 年代より低く、未婚を除き労働力率は大きな変化がない。

全体的生活満足感

最初に生活感を表すと考えられる全体的生活満足感について、全体と基本属性別に結果を確認しておく。

1 全体的生活満足感

全体の生活満足感は図2に示した通りである。全体的生活面では満足している人が多いという結果を得た。社会的背景として不況が続き、賃金の低下や就業条件の変化などの雇用面の現状を考えると「どちらともいえない」が多くを占めると予測したのであるが、そうではなく「どちらかといえば満足している」を選択した人が4割以上であり、「満足している」人が2割以上を占め、この合計が6割以上を占めるという結果である。



この結果を「満足している」「どちらかといえば満足している」「どちらともいえない」「どちらかといえば不満である」「不満である」に順に2、1、0、-1、-2点を配点し、記述統計量を表2に示した。平均値が0.672点であり、「どちらともいえない」を上回ることから満足感を持つ人が多いことを示している。

表2 全体的生活満足感の記述統計量

度数	平均値	最小値	最大値	標準偏差
554	0.672	-2.0	2.0	1.087

2 基本属性別全体的生活満足感

さらに基本属性別に全体的生活満足感を示したのが図3である。

これによると性別では女性の方が全体的生活満足感が高く、年代別では30歳代の満足感が高い傾向が認められる。一方、40歳代、50歳代の「どちらかといえば不満である」「不

満である」という回答が多く、子どもにかかる費用の負担が大きいこの年代の賃金の低下や就業条件の変化などによる不満を反映していると推測できる。

図3 全体的生活満足感（性別、年代別）

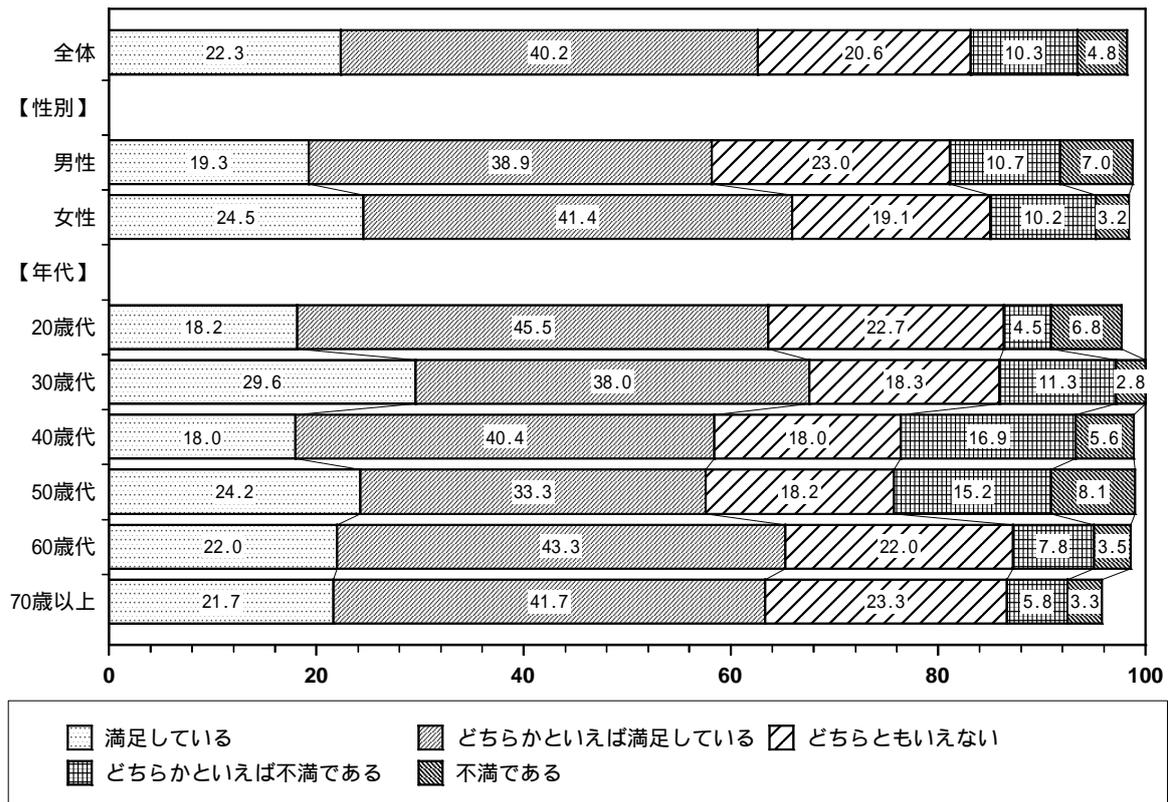


図4は職種別に全体的生活満足感を示している。これによると全体的生活満足感が高いのは「公務員（行政職や警察官、消防官など）」「専門職的職業（医師、看護師、薬剤師、保健師、弁護士、教師、研究職、宗教家など）」であり、「満足している」と「どちらかといえば満足している」を加えると「自営業・会社経営」「家事専業（無職の）」や「事務系専門職（医療事務、オペレーターなど）」「技術・技能系職業（製造、加工、組立、建設、その他技術者、作業員など）」がこれらに続いて満足感が高く見える。

逆に不満回答が多いのは「通信系技術者（パソコンネットワーク設定・管理、プログラミング・情報処理など）」「サービスの・保安的職業（理容・美容、接客、清掃、警備など）」「運輸系職業（電車・車・配送運転手・助手、荷役などの作業など）」「公務員（行政職や警察官、消防官など）」「販売的職業（商品の販売、店員、営業・セールスなど）」と続く。公務員は満足感も高いが不満も多い。

図4 全体的生活満足感（職種）

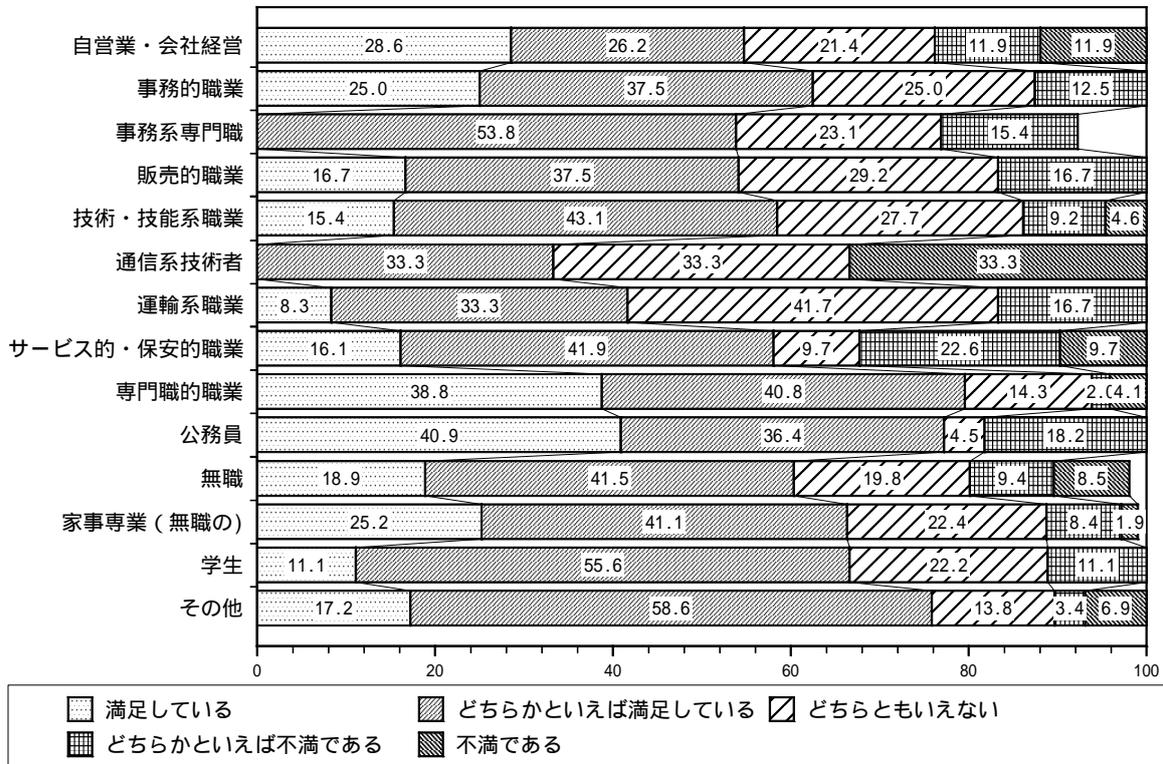


図5は就業形態別に全体的生活満足感を示している。今日の就業形態の変化は大きく、最初に仕事を始める時から契約や派遣職員であり、パート・アルバイトである場合も少なくない。事業所には「契約さん」「派遣さん」「パートさん」等が混在する。

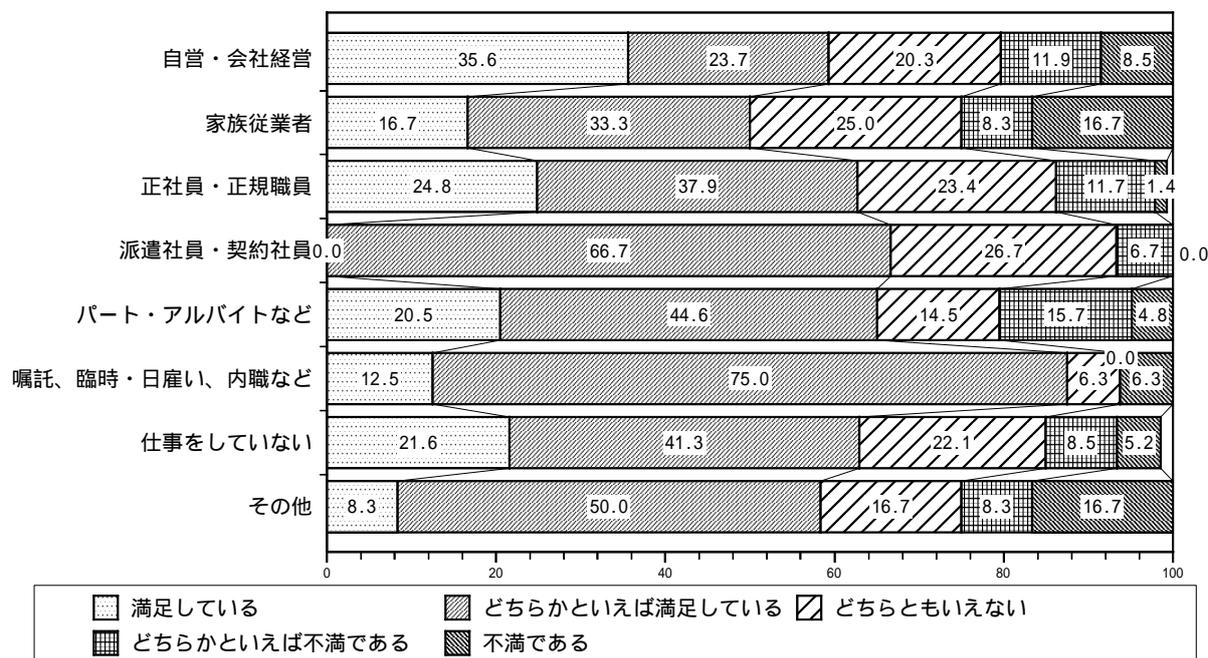
このような現状であるが、回答者に派遣・契約職員、嘱託、臨時・日雇い、内職は少なく、そのために図には一人当たりの回答が大きな数値となって示されている。

「満足している」人が多いのは「自営・会社経営」「正社員・正規職員」「仕事をしていない」「パート・アルバイトなど」である。これに「どちらかといえば満足している」を加えると「嘱託、臨時・日雇い、内職など」と「家族従業者」を除き大差がなくなる。

「不満である」は「家族従業者」と「その他」が多いが両者とも該当者が少ないことにより一人当たりの回答が大きな数値となって示されている。その中で「パート・アルバイトなど」「自営・会社経営」の不満が多少多めのようなのである。

就業形態による不満に関しては、不安定雇用が常態化し、そのために全体的生活満足感が低下していると予測したほどに、「正社員・正規職員」と「パート・アルバイトなど」の間で大差がないなど、大きな違いは認められなかった。

図5 全体的生活満足感（就業形態）



全体的生活面では満足している人が多いという結果であるが、賃金の低下や就業条件の変化などの雇用面の影響を受けている世代や職種により、全体的生活の満足感に違いがあることも分かる。

年代ではリストラ、昇給停止、減給などの対象となりやすい40～50歳代、職種では「通信系技術者（パソコンネットワーク設定・管理、プログラミング・情報処理など）」、「サービスの・保安的職業（理容・美容、接客、清掃、警備など）」、「運輸系職業（電車・車・配送運転手・助手、荷役などの作業など）」など、就業形態では「パート・アルバイトなど」の不安定雇用に不満が多いという傾向がある。ただし、「パート・アルバイトなど」には家計の補助として仕事をしている人も多く含まれるため、正社員・正規職員を望みながら不安定雇用への不満を持つ人の不満が相殺されている可能性がある。

表3には表2と同様に、「満足している」「どちらかといえば満足している」「どちらともいえない」「どちらかといえば不満である」「不満である」に順に2、1、0、-1、-2点を配点し、属性別記述統計量を示した。年代別では30歳代、60歳以上、職種では専門職的職業、公務員、事務的職業、家事専業（無職の）、就業形態では嘱託、臨時・日雇い、内職など、正社員・正規職員の平均値が高く、70歳以上、家事専業（無職の）、専門職的職業、嘱託、臨時・日雇い、内職などの標準偏差が小さいことは、バラツキが小さいことを示している。また、サービスの・保安的職業、運輸系職業、事務系専門職の標準偏差が小さい。家族従業者の平均値が低く、派遣社員・契約社員の標準偏差が小さい。

表3 全体的生活満足感記述統計量

		度数	平均値	最小値	最大値	標準偏差
年代	20歳代	44	0.651	-2	2	1.066
	30歳代	71	0.803	-2	2	1.077
	40歳代	89	0.489	-2	2	1.145
	50歳代	99	0.510	-2	2	1.246
	60歳代	141	0.734	-2	2	1.011
	70歳以上	120	0.757	-2	2	.988
配偶関係	未婚	99	0.296	-2	2	1.177
	既婚（現在、夫または妻がいる）	396	0.786	-2	2	1.018
	既婚（配偶者と離別または死別）	69	0.485	-2	2	1.203
職種	自営業・会社経営	42	0.476	-2	2	1.348
	事務的職業	40	0.750	-1	2	.981
	事務系専門職	13	0.417	-1	1	.793
	販売的職業	24	0.542	-1	2	.977
	技術・技能系職業	65	0.554	-2	2	1.016
	通信系技術者	3	-0.333	-2	1	1.528
	運輸系職業	12	0.333	-1	2	.888
	サービスの・保安的職業	31	0.323	-2	2	1.275
	専門職的職業	49	1.082	-2	2	.997
	公務員	22	1.000	-1	2	1.113
	無職	106	0.538	-2	2	1.165
	家事専業（無職の）	107	0.802	-2	2	.980
	学生	9	0.667	-1	2	.866
	就業形態	自営・会社経営	59	0.661	-2	2
家族従業者		12	0.250	-2	2	1.357
正社員・正規職員		145	0.736	-2	2	1.010
派遣社員・契約社員		15	0.600	-1	1	.632
パート・アルバイトなど		83	0.602	-2	2	1.126
嘱託、臨時・日雇い、内職など		16	0.875	-2	2	.885
仕事をしていない		213	0.667	-2	2	1.073

生活のゆとり感

全体的生活の満足感が高かったのであるが、以下では、生活のゆとり感について質問した「全体的な生活面のゆとり」「経済面のゆとり」「日常生活でのゆとり」について最初に検討し、次に「全体的な生活面のゆとり」の ～ について基本属性別に結果を検討する。

1 全体の生活面のゆとり感

(1) 全体的な生活面のゆとり

全体的な生活面のゆとりとして「経済面の全体的ゆとり」「時間面の全体的ゆとり」「居住空間面の全体的ゆとり」と「精神面の全体的ゆとり」「総合的な生活のゆとり」について「十分ある」「ある程度ある」「あまりない」「非常に乏しい」により回答を得た結果を図6に示した。

全体的な生活面のゆとりでは、ゆとり感が高かったのは、「十分ある」が多い「居住空間面の全体的ゆとり」と「時間面の全体的ゆとり」である。次に「精神面の全体的ゆとり」「総合的な生活のゆとり」であり、これらは「十分ある」「ある程度ある」を加えると半数を超えている。「経済面の全体的ゆとり」は「十分ある」が「非常に乏しい」を下回り、「ある程度ある」「あまりない」の両者が同水準であるなど、経済面でのゆとり感は居住空間面や時間面に比べると低いようである。経済面に余裕がない人が過半数を超えているとも見える。

(2) 経済面のゆとり

その経済面のゆとり感としては、「毎日の生活費」「病気など万一の場合の経済的余裕」「教育や子育て資金」「老後の備え」「交際費・娯楽費」について質問した。結果は、図6の通り、「毎日の生活費」には困らないが「老後の備え」や「教育や子育て資金」が不十分であると感じている人が多いことを示している。特に「老後の備え」には不安を持つ人が多いことが示されている。「病気など万一の場合の経済的余裕」「交際費・娯楽費」は「老後の備え」や「教育や子育て資金」よりはゆとり感を持つ人が多いが、余裕のない人が過半数を占めている。

(3) 日常生活でのゆとり

図6には、日常生活でのゆとり感として「家事や育児のゆとり」「家族の介護のゆとり」「家族関係のゆとり」「将来に関するゆとり」「余暇時間」を示した。

これによると、ゆとりが「十分ある」が多いのは「余暇時間」であるが、加えて「家族関係のゆとり」や「家事や育児のゆとり」がある人が半数以上であることが分かる。一方、「将来に関するゆとり」では展望が持てないのかゆとり感がある人が4割以下である。

また、「 家族の介護のゆとり」に関しても「 余暇時間」や「 家族関係のゆとり」「 家事や育児のゆとり」に比べると、ゆとりを十分に感じられない人が多くを占めている。

これらの結果は、経済面では日常生活で困らないが老後の備えができるほどの余裕はないし、子育て資金も不安がある。また、日常生活では時間の余裕があり、家事や子育ての余裕もあるし、家族関係も良好であるが、将来の展望や家族の介護に不安を抱いている姿が認められる。今は良いが老後は、介護はどうすべきか、という今後に不安を持っている様子が窺える。

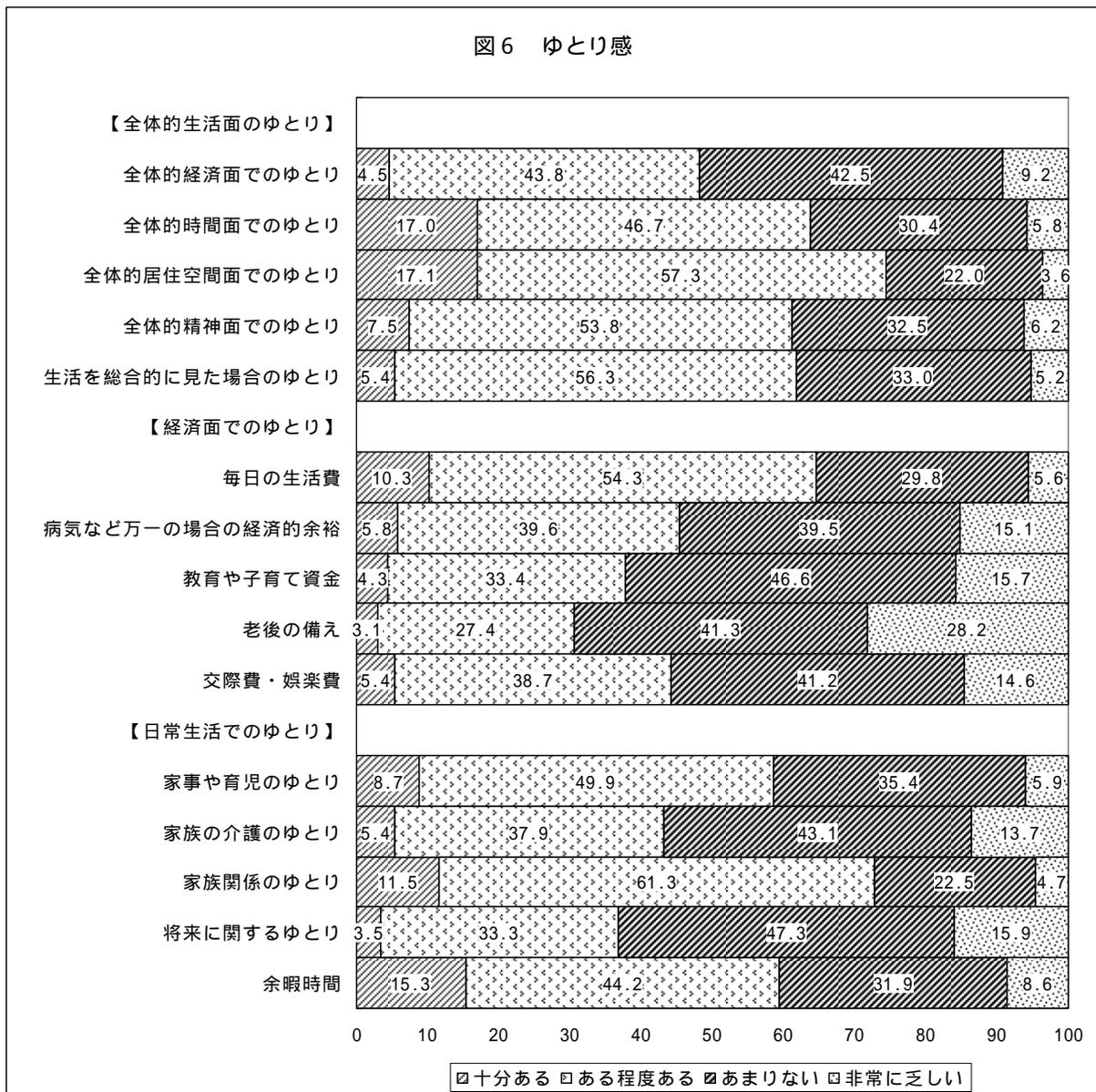


表4～6には「十分ある」「ある程度ある」「あまりない」「非常に乏しい」の順に4、3、2、1点を配点して求めた記述統計量を示している。これによると全体的ゆとり、経済面

のゆとり、日常生活でのゆとりに含めた各項目の標準偏差が小さく、バラツキ小さいことがわかる。

全体的ゆとりでは「 居住空間面の全体的ゆとり」、経済面のゆとりでは「 毎日の生活費」、日常生活でのゆとりでは「 家族関係のゆとり」「 余暇時間」「 家事や育児のゆとり」の平均値が高い。逆に平均値が低いのは全体的ゆとりでは「 経済面の全体的ゆとり」、経済面のゆとりでは「 老後の備え」「 教育や子育て資金」、日常生活でのゆとりでは「 将来に関するゆとり」「 家族の介護のゆとり」である。現状の生活にはゆとり感があっても、介護や教育や子育て、老後の備えに不安があり、今後に関しては不確実であることを示唆している。

表4 全体的ゆとり

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
経済面の全体的ゆとり	555	1	4	2.436	0.722
時間面の全体的ゆとり	552	1	4	2.750	0.803
居住空間面の全体的ゆとり	550	1	4	2.878	0.723
精神面の全体的ゆとり	550	1	4	2.625	0.713
総合的な生活のゆとり	554	1	4	2.619	0.671

表5 経済面のゆとり

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
毎日の生活費	554	1	4	2.693	0.729
病気など万ーの場合の経済的余裕	555	1	4	2.360	0.806
教育や子育て資金	464	1	4	2.263	0.772
老後の備え	554	1	4	2.054	0.823
交際費・娯楽費	553	1	4	2.349	0.794

表6 日常生活でのゆとり

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
家事や育児のゆとり	505	1	4	2.614	0.729
家族の介護のゆとり	504	1	4	2.349	0.781
家族関係のゆとり	537	1	4	2.797	0.698
将来に関するゆとり	546	1	4	2.244	0.757
余暇時間	548	1	4	2.662	0.838

2 基本属性別生活の全体的ゆとり感

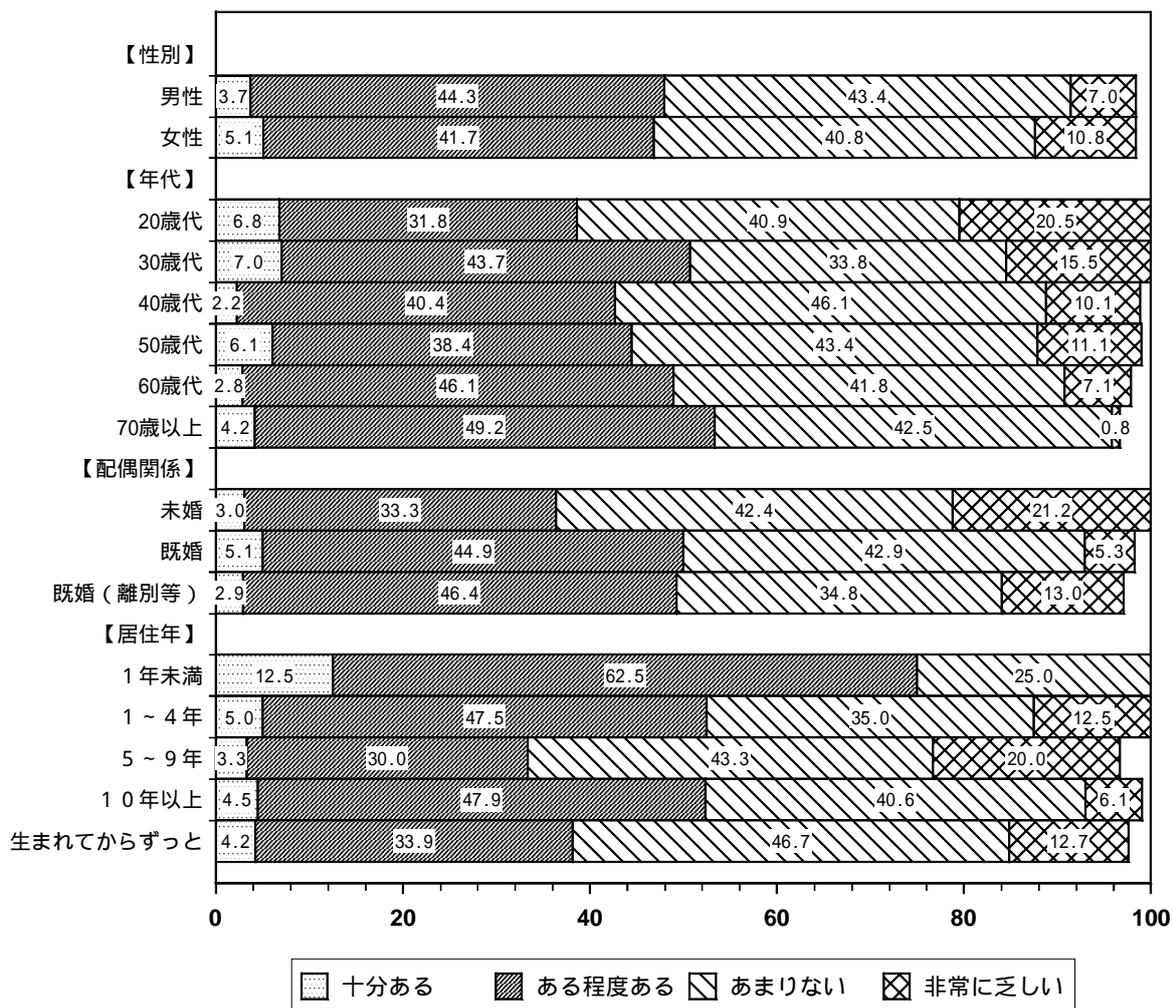
以下では全体的ゆとり感の各項目について属性別に検討する。

(1) 経済面の全体的ゆとり

経済面の全体的なゆとり感が高いのは、性別では男性、年代では30歳代と年代が高くなるほど、配偶関係では既婚、居住年では年数が4年未満の短い人と10年以上である。

逆に低いのは、20歳代、未婚、居住年が5～9年である。

図7 経済面の全体的ゆとり感（性別、年代別、配偶関係別、居住年）



経済面の全体的なゆとり感を職種別に示したのが図8である。これを見るとゆとり感が高いのは、専門職的職業（医師、看護師、薬剤師、保健師、弁護士、教師、研究職、宗教家など）、公務員（行政職や警察官、消防官など）である。事務的職業（一般事務、外勤事務、集金人など）、家事専業（無職の）、無職がこれに続く。

ゆとり感が少ないのは通信系技術者（パソコンネットワーク設定・管理、プログラミン

グ・情報処理など)、運輸系職業(電車・車・配送運転手・助手、荷役などの作業など)、サービスの・保安的の職業(理容・美容、接客、清掃、警備など)、事務系専門職(医療事務、オペレーターなど)である。なお、「その他」には介護職が多い。

図8 経済面の全体的ゆとり感(職種別)

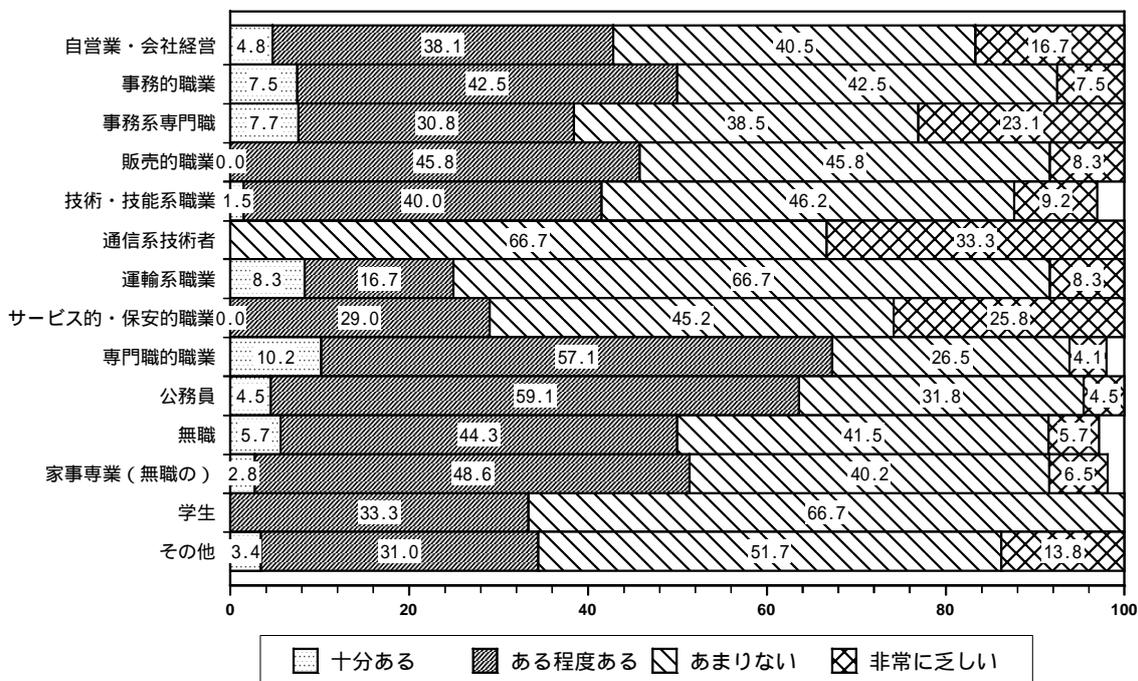


図9 経済面の全体的ゆとり感(就業形態別)

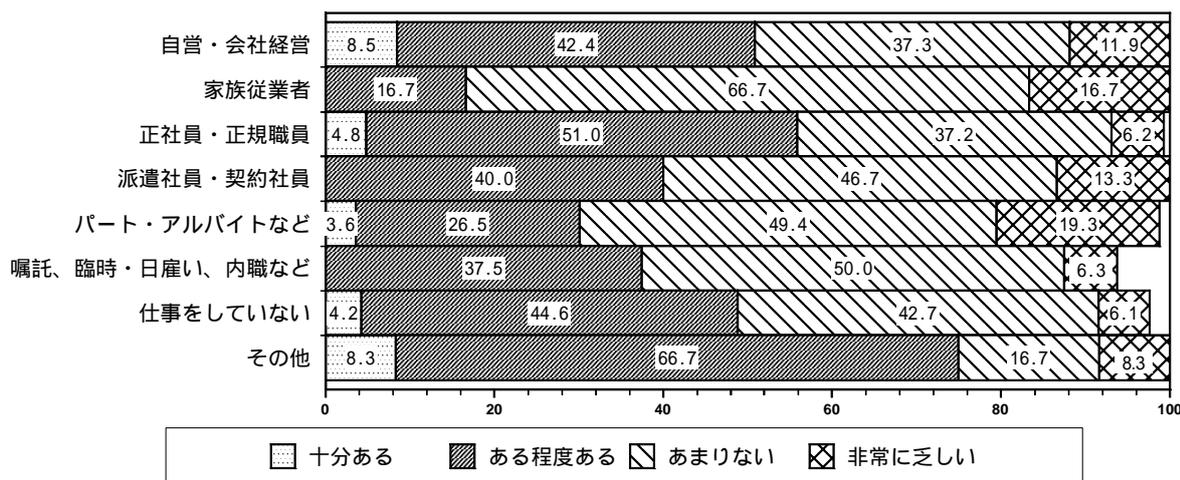
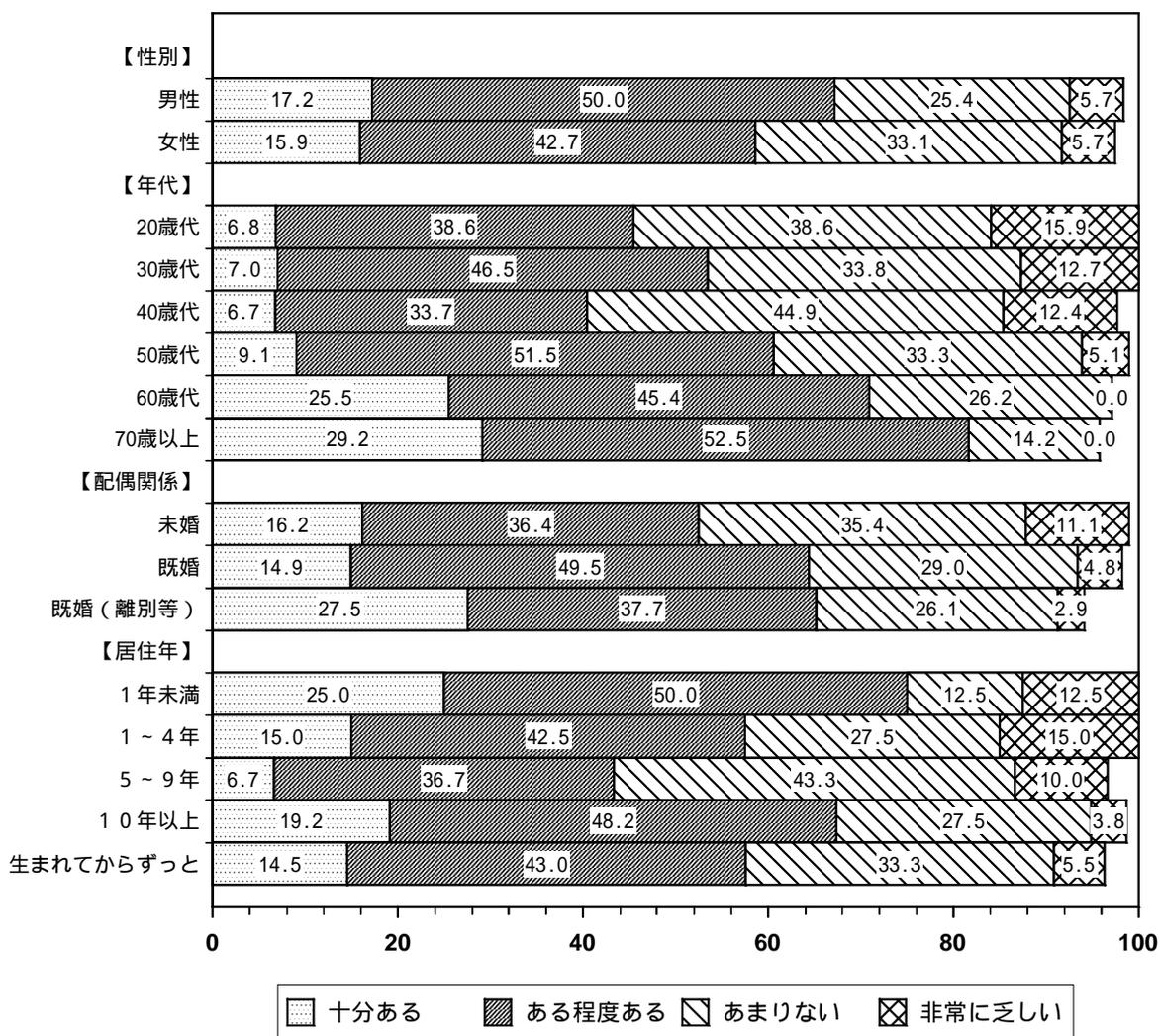


図9には就業形態の経済面の全体的ゆとり感を示した。これによると、ゆとり感が高いのは正社員・正規職員、自営業・会社経営、仕事をしていないである。その他は学生が多い。ゆとり感が少ないのはパート・アルバイトなど嘱託、臨時・日雇い、内職などである。

(2) 時間面の全体的ゆとり

時間面の全体的なゆとり感が高いのは、性別では男性、年代では 30 歳代と年代が高くなるほど、配偶関係では既婚、離別など、居住年では年数が 4 年未満の短い人と 10 年以上である。逆に低いのは、40 歳代、20 歳代、未婚、居住年が 5～9 年である。この傾向は経済面と同じである(図 10 参照)。

図10 時間面の全体的ゆとり感（性別、年代別、配偶関係別、居住年）



時間面の全体的なゆとり感を職種別に示したのが図 11 である。これを見るとゆとり感が高いのは、無職、家事専業(無職の)、公務員(行政職や警察官、消防官など)、自営業・会社経営、販売的職業(商品の販売、店員、営業・セールスなど)などであり、無職と家事専業(無職の)が顕著にゆとり感が高い。経済面でゆとりのあった専門職的職業(医師、

看護師、薬剤師、保健師、弁護士、教師、研究職、宗教家など）などは時間面ではゆとりがあるとはいえないようである。経済面でゆとり感が少なかった通信系技術者（パソコンネットワーク設定・管理、プログラミング・情報処理など）、運輸系職業（電車・車・配送運転手・助手、荷役などの作業など）、サービスの・保安的職業（理容・美容、接客、清掃、警備など）、事務系専門職（医療事務、オペレーターなど）は時間面でもゆとり感が低い。

図11 時間面の全体的ゆとり感（職種別）

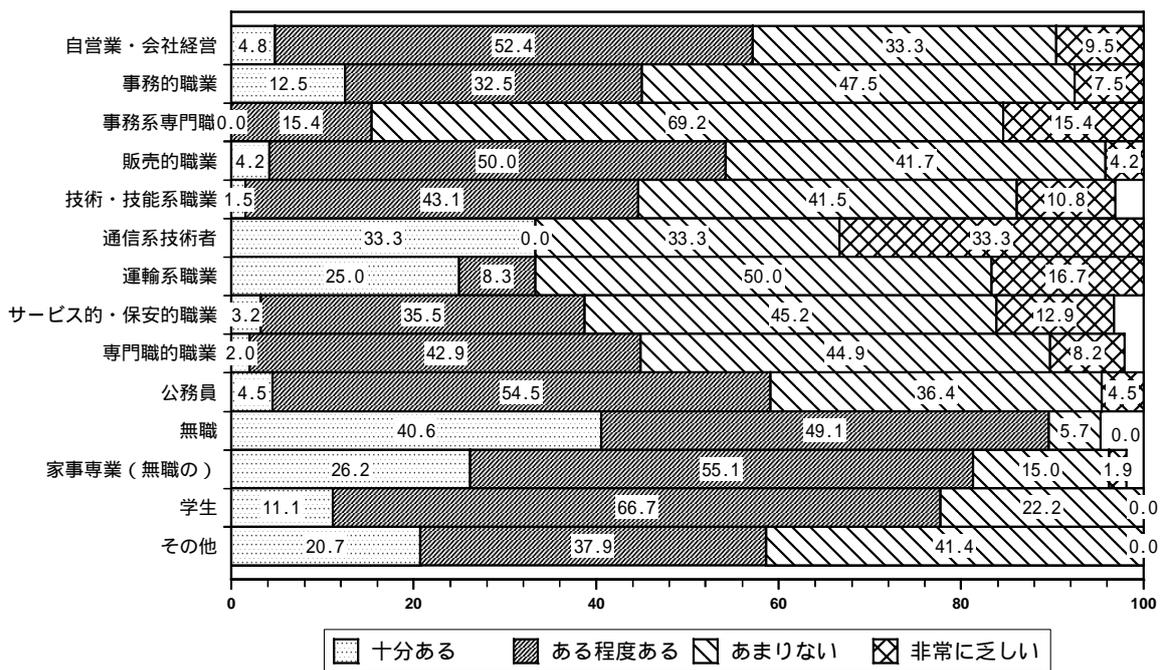


図12 時間面の全体的ゆとり感（就業形態別）

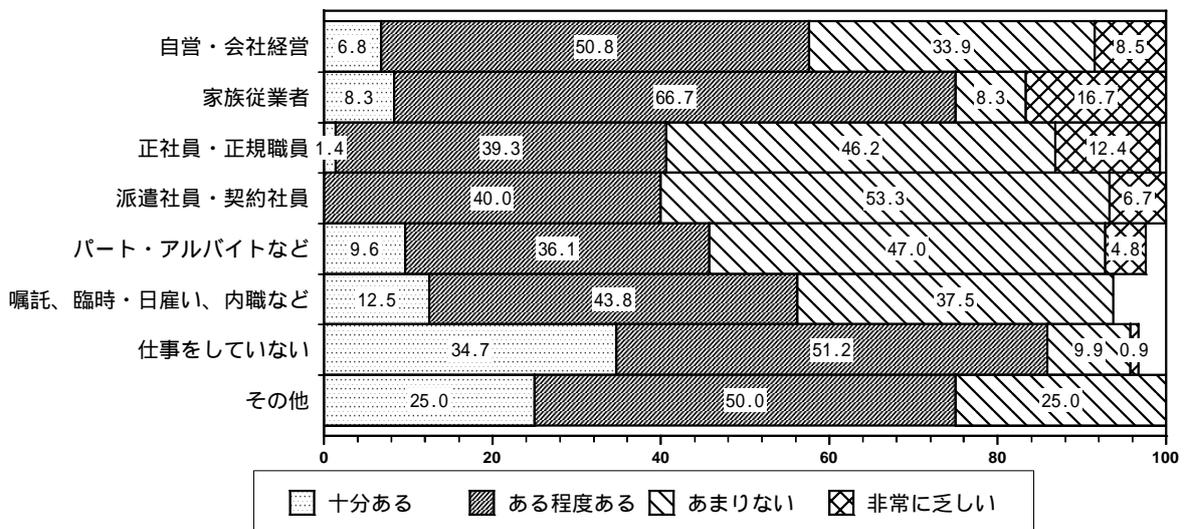


図 12 には就業形態の時間面の全体的ゆとり感を示した。これによると、ゆとり感が高いのは仕事をしていない人である。また、全体的生活満足感の低かった家族従業者の時間面のゆとり感が高く、嘱託、臨時・日雇い、内職などや自営業・会社経営も高い。ゆとり感が少ないのは派遣・契約社員、正社員・正規職員、パート・アルバイトなどである。

(3) 居住空間面の全体的ゆとり

居住空間面の全体的なゆとり感が高いのは、性別では女性、年代では大差がなく、居住年では年数が 4 年未満の短い人である。逆に低いのは、40 歳代、離別などである (図 13 参照)。この傾向は経済面とも時間面とも異なり、属性による差は小さい。

図13 居住空間の全体的ゆとり感 (性別、年代別、配偶関係別、居住年)

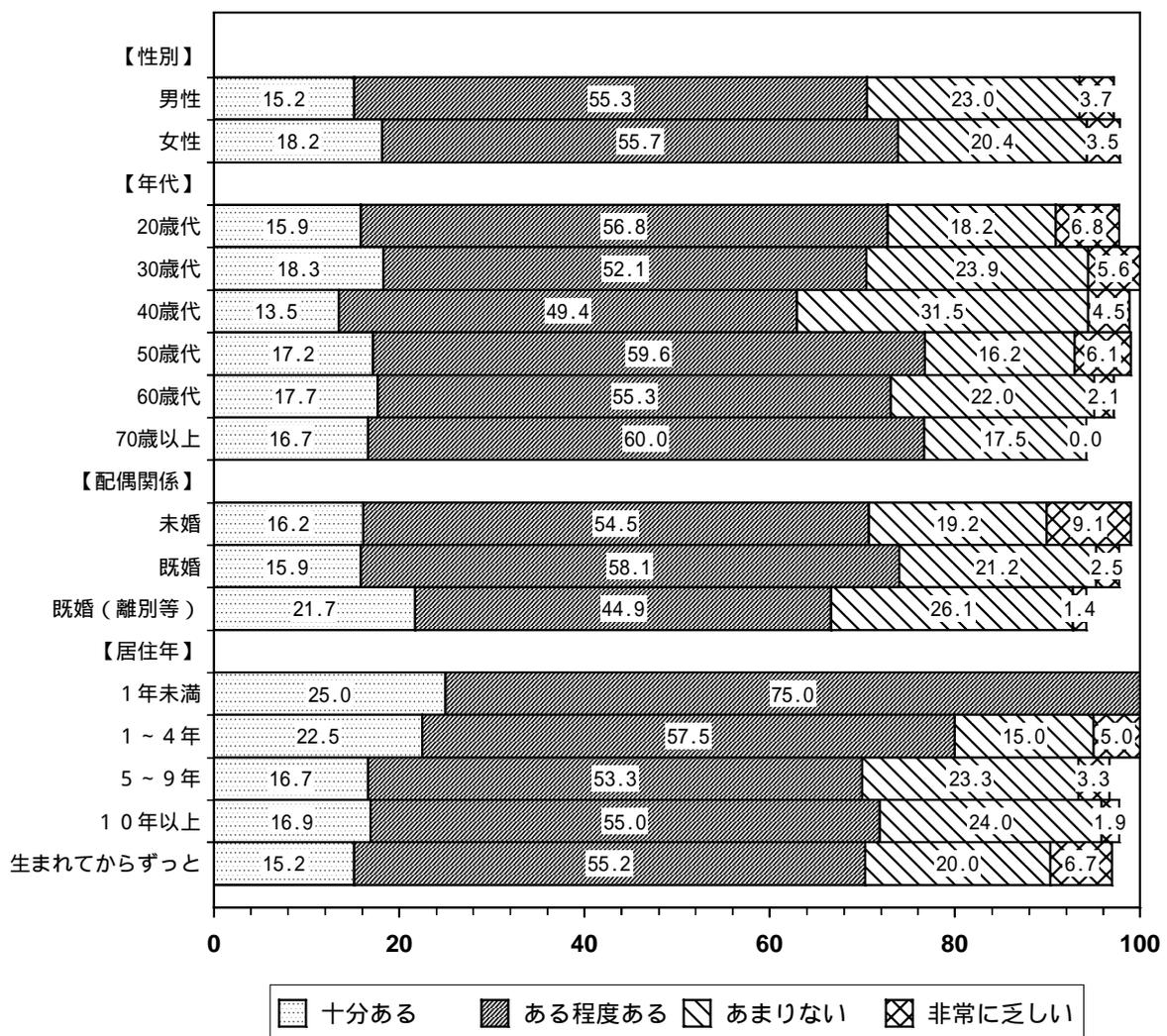


図14 居住空間の全体的ゆとり感（職種別）

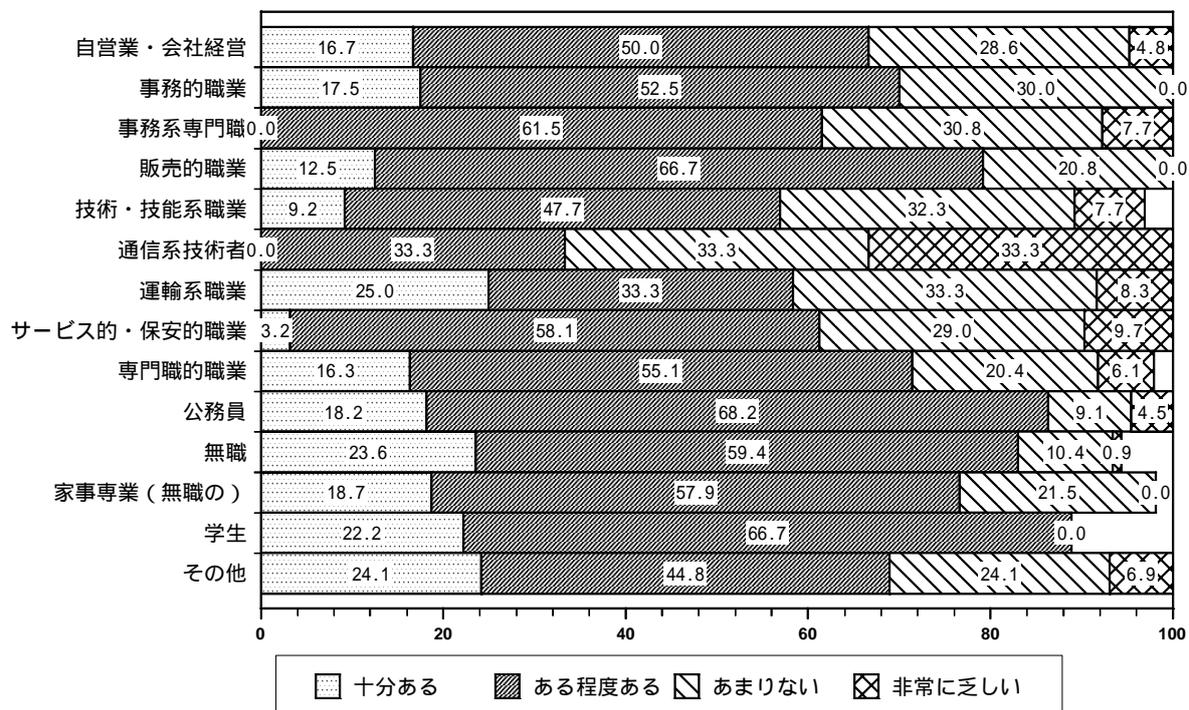
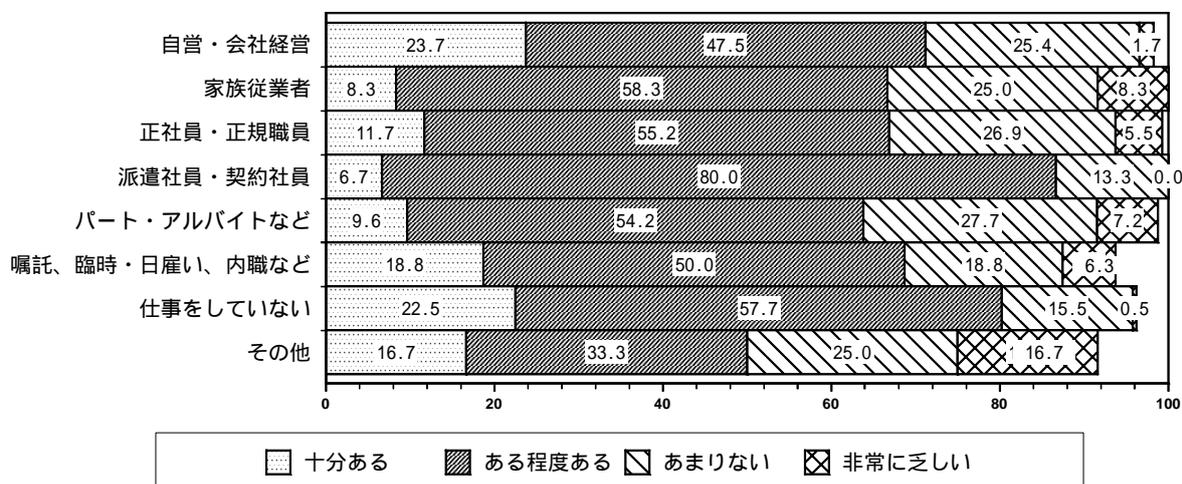


図15 居住空間の全体的ゆとり感（就業形態別）



居住空間面の全体的なゆとり感を職種別に示したのが図 14 である。これを見るとゆとり感が高いのは、公務員（行政職や警察官、消防官など）、学生、無職、販売的職業（商品の販売、店員、営業・セールスなど）、家事専業（無職の）などであり、専門職的職業（医師、看護師、薬剤師、保健師、弁護士、教師、研究職、宗教家など）は経済面ほどゆとり感があるとはいえないようである（個人の要求水準によるが）。経済面、時間面共にゆとり感が少なかった通信系技術者（パソコンネットワーク設定・管理、プログラミング・情報

処理など)、運輸系職業(電車・車・配送運転手・助手、荷役などの作業など)、サービスの・保安的職業(理容・美容、接客、清掃、警備など)、事務系専門職(医療事務、オペレーターなど)は居住空間面でもゆとり感が低い。

図 15 には就業形態の時間面の全体的ゆとり感を示した。これによると、ゆとり感が高いのは仕事をしていない人と派遣・契約社員であり、他は大差がない。

(4) 精神面の全体的ゆとり

精神面の全体的なゆとり感が高いのは、性別では男性、年代では 60 歳以上、配偶関係では既婚、離別、居住年では年数が短い人である。逆に低いのは、未婚、居住年の 5~9 年などである(図 16 参照)。しかし、属性による差は小さい。

図 16 精神面の全体的ゆとり感(性別、年代別、配偶関係別、居住年)

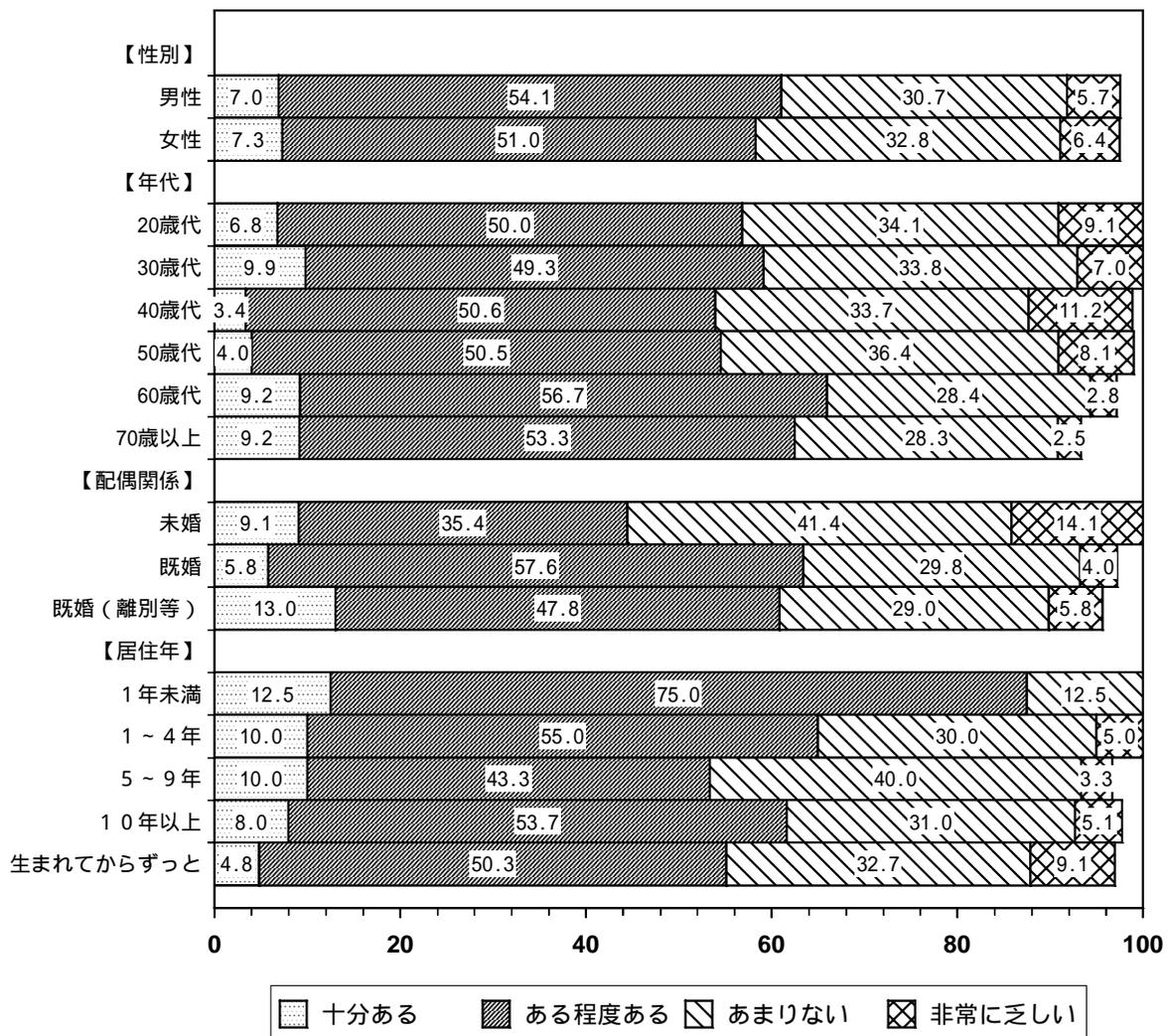


図17 精神面の全体的ゆとり感（職種別）

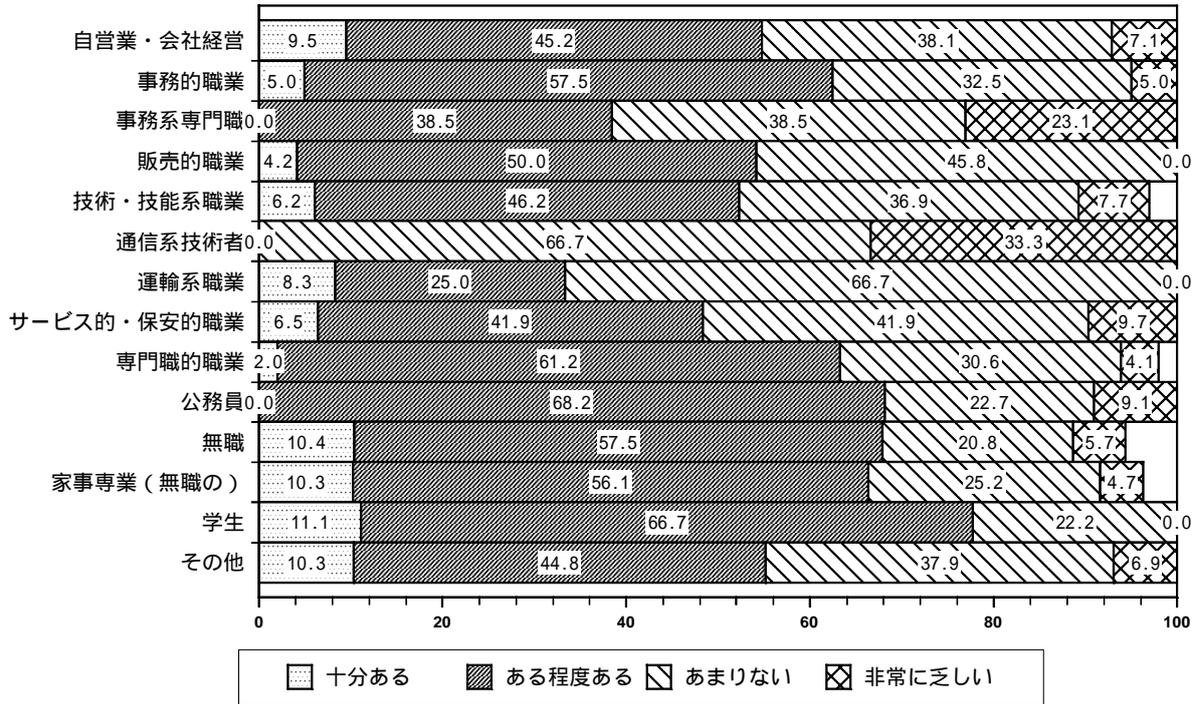
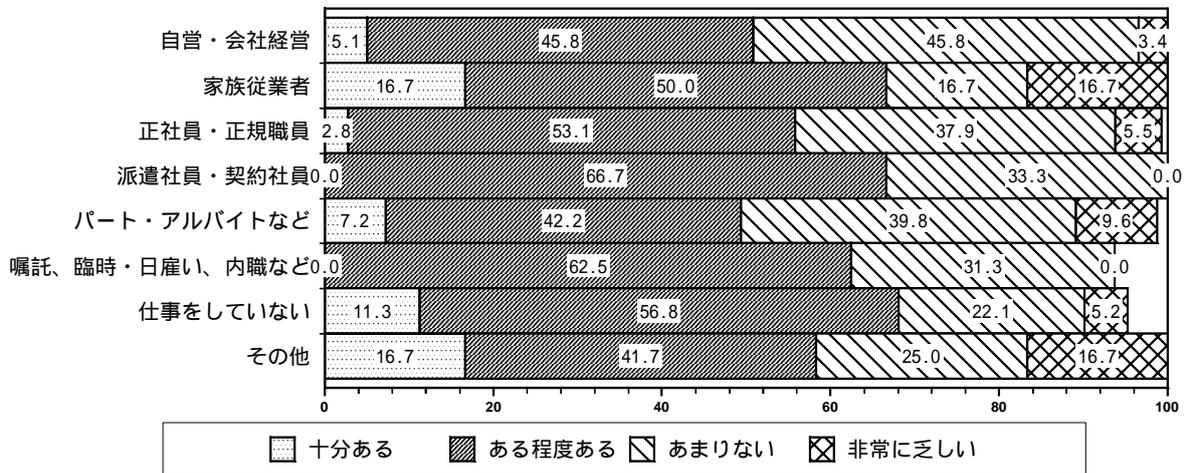


図18 精神面の全体的ゆとり感（就業形態別）



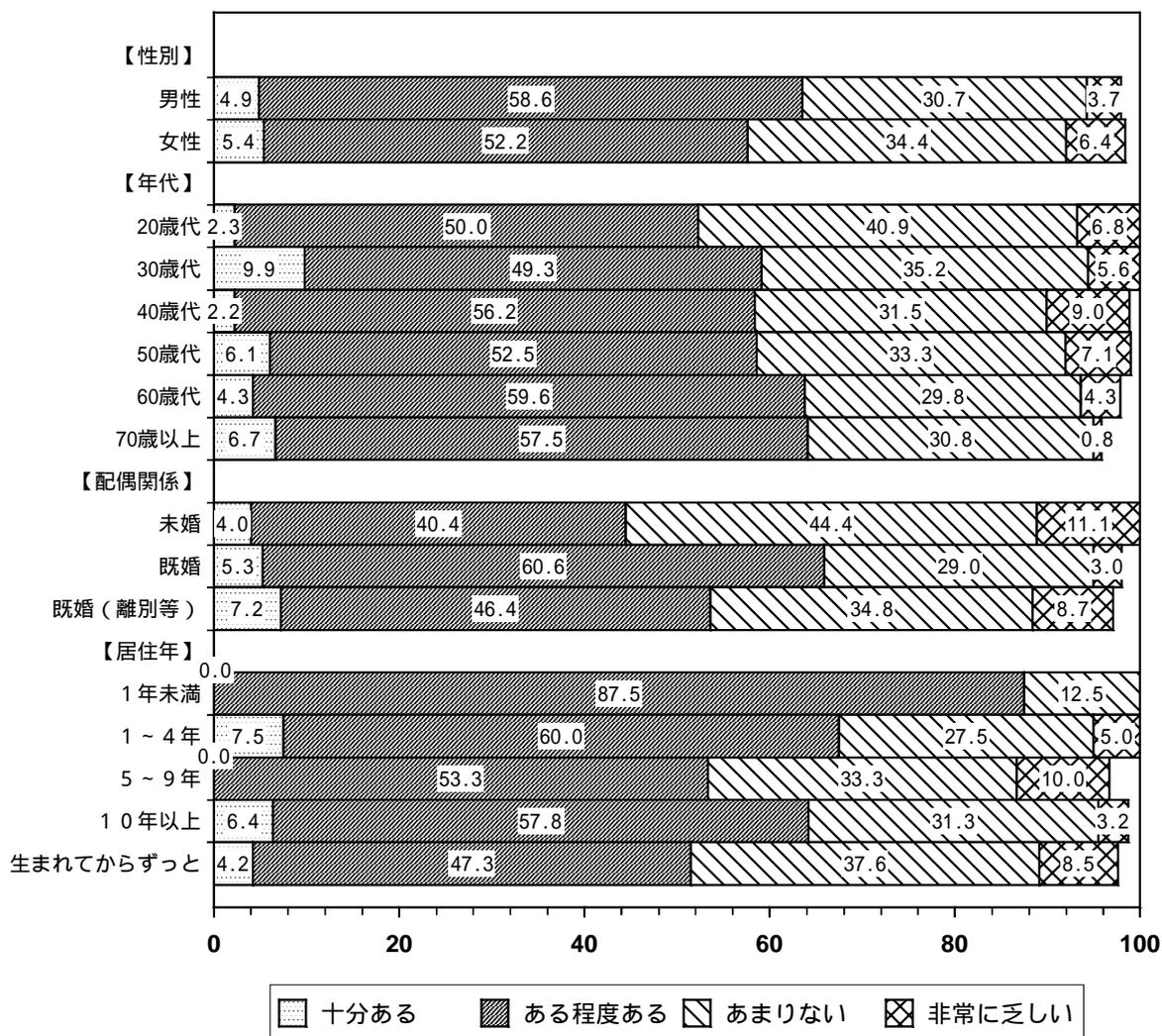
精神面の全体的なゆとり感を職種別に示した図17によると、ゆとり感が高いのは、学生、無職、家事専業（無職の）、公務員（行政職や警察官、消防官など）、事務的職業（一般事務、外勤事務、集金人など）、専門職的職業（医師、看護師、薬剤師、保健師、弁護士、教師、研究職、宗教家など）などであり、経済面、時間面、居住空間面共にゆとり感が少なかった通信系技術者（パソコンネットワーク設定・管理、プログラミング・情報処理な

ど) 事務系専門職(医療事務、オペレーターなど)、運輸系職業(電車・車・配送運転手・助手、荷役などの作業など)、サービスの・保安的職業(理容・美容、接客、清掃、警備など)は精神面でもゆとり感が少ない。

図 18 には就業形態の精神面の全体的ゆとり感を示した。これによると、精神面のゆとり感が高いのは仕事をしていない人、家族従業者、派遣・契約社員、嘱託、臨時・日雇い、内職などであり、ゆとり感が低いのはパート・アルバイトなど、自営・会社経営である。

(5) 総合的な生活のゆとり

図19 生活の総合的ゆとり感(性別、年代別、配偶関係別、居住年)



総合的な生活のゆとり感が高いのは、性別では男性、年代では年代が高くなるほど、配偶関係では既婚、離別、居住年では年数が4年以内の短い人と10年以上の人である。逆に低いのは、未婚、居住年の5～9年などである（図19参照）。

図20 生活の総合的ゆとり感（職種別）

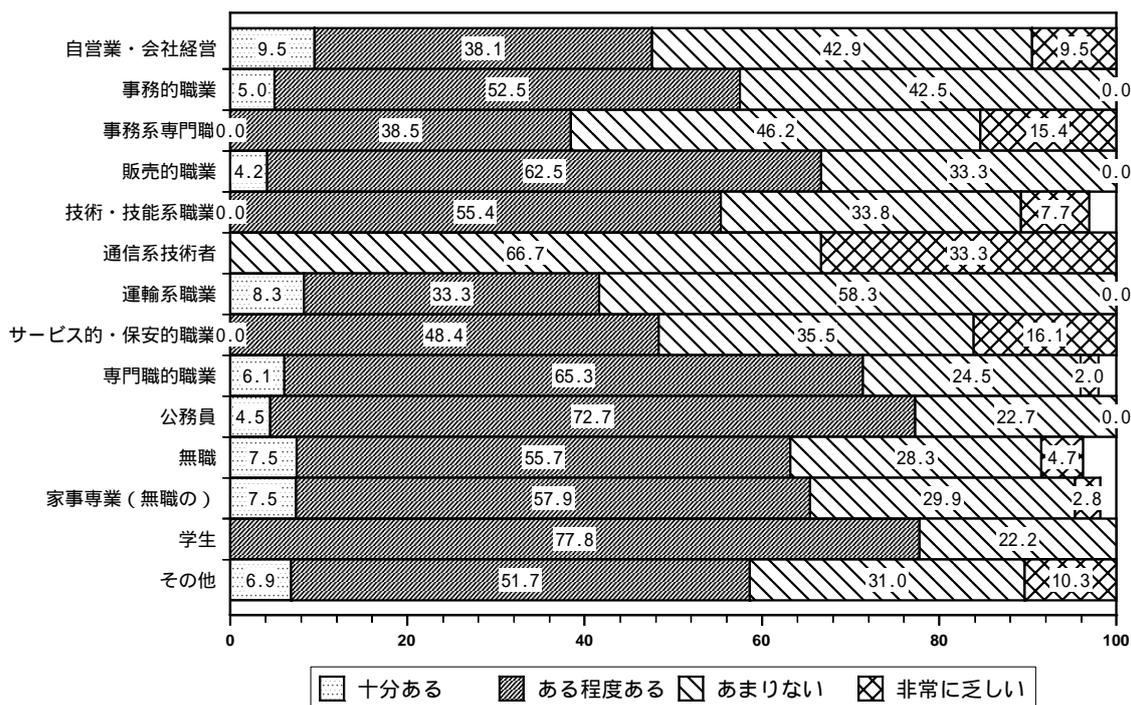
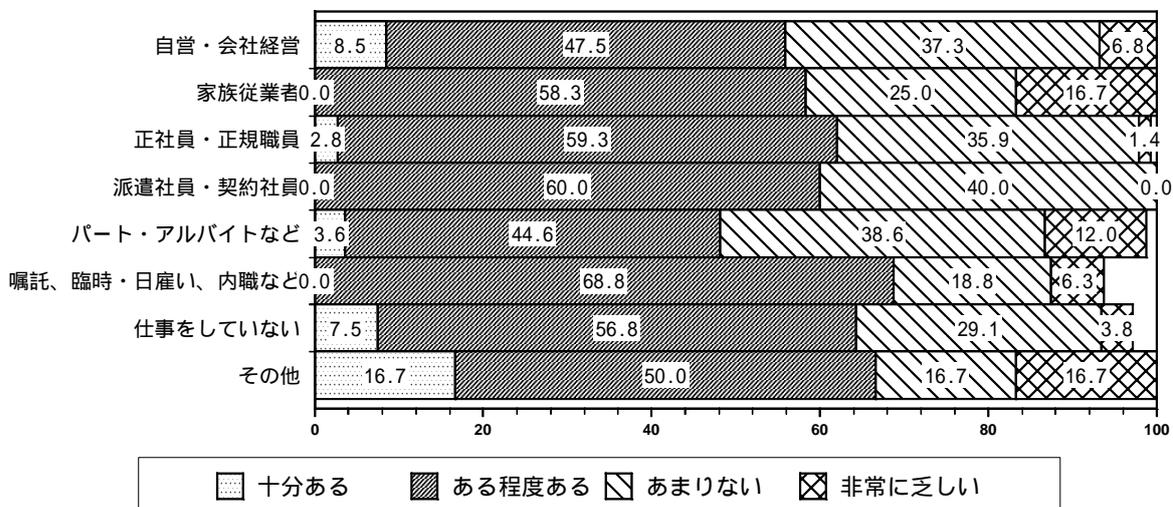


図21 生活の総合的ゆとり感（就業形態別）



総合的な生活のゆとり感を職種別に示した図 20 によると、ゆとり感が高いのは、学生、公務員（行政職や警察官、消防官など）、専門職的職業（医師、看護師、薬剤師、保健師、弁護士、教師、研究職、宗教家など）、販売的職業（商品の販売、店員、営業・セールスなど）である。無職や家事専業（無職の）は事務的職業（一般事務、外勤事務、集金人など）と同水準であるが、学生、公務員（行政職や警察官、消防官など）、専門職的職業（医師、看護師、薬剤師、保健師、弁護士、教師、研究職、宗教家など）よりは低い。経済面、時間面、精神面共にゆとり感が少なかった通信系技術者（パソコンネットワーク設定・管理、プログラミング・情報処理など）、運輸系職業（電車・車・配送運転手・助手、荷役などの作業など）、サービスの・保安的職業（理容・美容、接客、清掃、警備など）、事務系専門職（医療事務、オペレーターなど）は総合的な生活のゆとり感でもゆとり感が少ない。

図 21 には就業形態の時間面の総合的な生活のゆとり感を示した。これによると、就業形態別では大きな差は認められないが、パート・アルバイトなどのゆとり感が低い。

なお、経済面の全体的ゆとり、時間面の全体的ゆとり、居住空間面の全体的ゆとり、精神面の全体的ゆとり、総合的な生活のゆとりについて、「十分ある」「ある程度ある」「あまりない」「非常に乏しい」の順に 4、3、2、1 点を配点して求めた全体の記述統計量は表 4 に示しているが属性別記述統計量は、性別では大差が認められないため、これを除いて末尾に参考として資料 3 記述統計量として示している。

3 全体的なゆとり不足の要素

図 22 には景気の回復感とともに生活面のゆとり不足を何により感じているかを示した。図により明らかな通り、生活面のゆとり不足は経済面の不足感が主であり、景気の回復感を感じていない。

表 7 は全体的な生活面のゆとりは何により不足していると感じているかを属性別に示している。表から明らかな通り、共通してゆとり不足を感じる要因は「経済的ゆとり」と「精神的ゆとり」である。一方、この点に関しても性別を除く年代や職種などの属性による違いが認められる。

年代では、年代が高くなるに従い、不足していると感じる要因が経済から精神的ゆとりに変化し、時間面のゆとり不足が減少する。配偶関係では大差が認められないが、既婚は経済的にも精神的にも不足を感じている人が少ない。

職種ではゆとり不足を感じる要因を経済面での不足とする人が通信系技術者、運輸系職業、サービスの・保安的職業の 7 割近く、事務系専門職・販売的職業と技術・技能系職業の 6 割近くを占めるのに対して、公務員、専門職はその半分である。しかし、精神的ゆとり不足が生活のゆとり不足の要因と感じている人が通信系技術者、運輸系職業、サービスの・保安的職、技術・技能系職業では少ない。公務員、専門職は時間的ゆとり不足を感じ

ている人が多い。

就業形態別では家族従業者、派遣社員・契約社員、パート・アルバイトなどは経済的ゆとり不足が多く、仕事をしていない人は経済面によるゆとり不足を感じている人は少ない。

精神面のゆとり不足を感じている人が多いのは派遣社員・契約社員である。なお、これらの結果のカイ2乗検定では、期待度数が小さく検定ができなかった中で年代に関しては、カイ2乗=67.946、df=25、 $p < .01$ で有意であった。

表8には景気の回復を感じる生活面について示したが、ほとんどは景気の回復を感じていないという結果である。不安定雇用とされる派遣社員・契約社員には、仕事における精神的ゆとりが出てきたことから景気の回復を感じている人もいる。

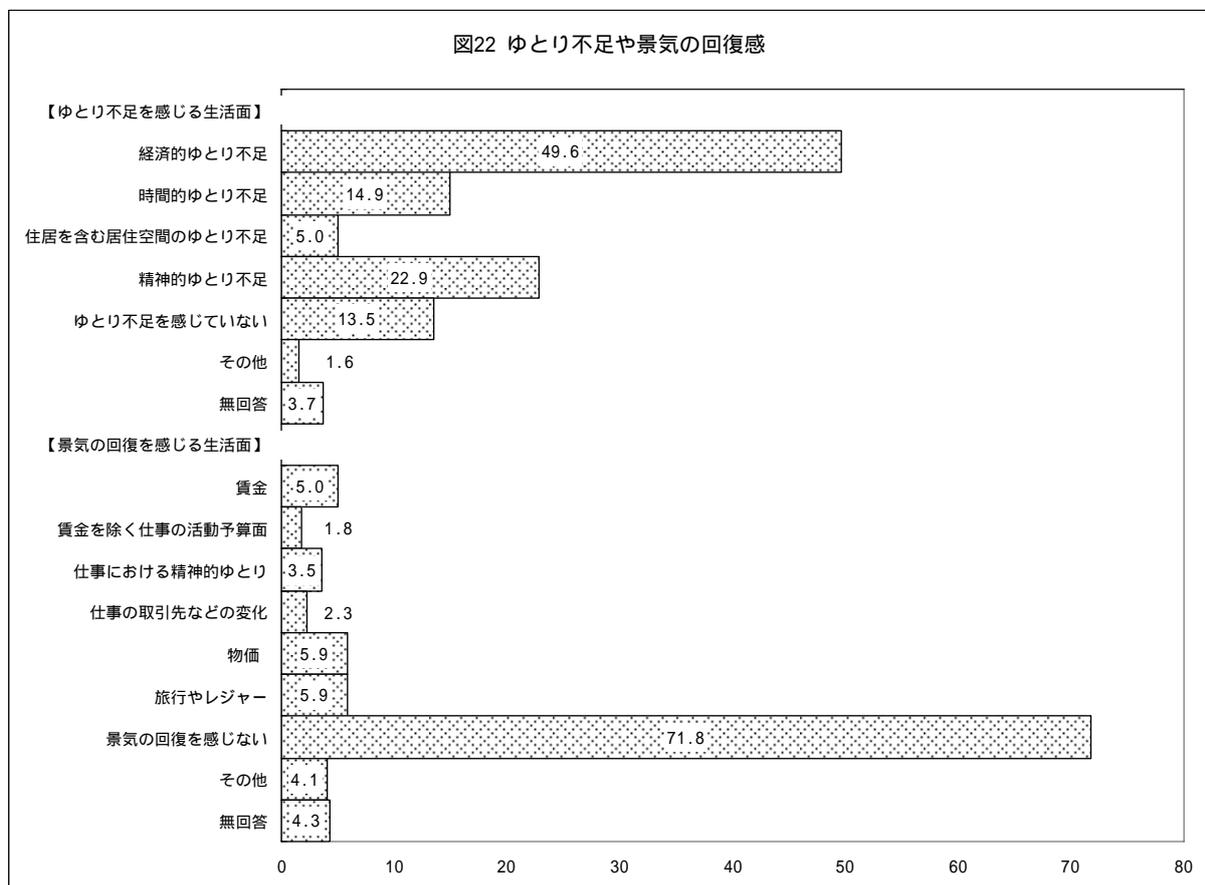


表7 ゆとり不足を感じる生活面

	経済的 ゆとり不足	時間的 ゆとり不足	住居を含む 居住空間の ゆとり不足	精神的 ゆとり不足	ゆとり不足 を感じない
男性	49.6	13.9	4.5	23.0	14.3
女性	50.0	15.9	5.4	22.3	12.7
20歳代	52.3	13.6	4.5	20.5	9.1
30歳代	49.3	29.6	4.2	21.1	9.9
40歳代	57.3	23.6	2.2	20.2	6.7
50歳代	57.6	17.2	8.1	23.2	7.1
60歳代	46.8	9.2	7.1	19.9	19.9
70歳以上	40.0	5.0	2.5	30.0	20.0
未婚	57.6	13.1	6.1	28.3	9.1
既婚（現在、夫または妻がいる）	46.7	16.7	4.3	21.2	14.9
既婚（配偶者と離別または死別）	55.1	7.2	7.2	24.6	11.6
自営業・会社経営	54.8	14.3	2.4	28.6	11.9
事務的職業	50.0	22.5	2.5	22.5	12.5
事務系専門職・販売的職業	56.8	18.9	2.7	24.3	5.4
通信系技術者、運輸系職業、サービスの・保安的職	67.4	13.0	6.5	15.2	6.5
技術・技能系職業	58.5	23.1	6.2	16.9	12.3
学生、その他	60.5	15.8	7.9	23.7	7.9
専門職的職業	30.6	32.7	4.1	26.5	14.3
公務員	27.3	31.8	4.5	22.7	13.6
無職	46.2	-	1.9	25.5	22.6
家事専業（無職の）	44.9	9.3	9.3	23.4	13.1
自営・会社経営	45.8	15.3	1.7	27.1	18.6
家族従業者	66.7	25.0	-	16.7	-
正社員・正規職員	46.2	30.3	4.1	22.1	6.2
派遣社員・契約社員	60.0	13.3	-	33.3	20.0
パート・アルバイトなど	62.7	12.0	7.2	19.3	12.0
嘱託、臨時・日雇い、内職など	50.0	18.8	-	25.0	12.5
仕事をしていない	46.9	4.2	5.6	23.0	17.4
その他	33.3	25.0	25.0	41.7	8.3

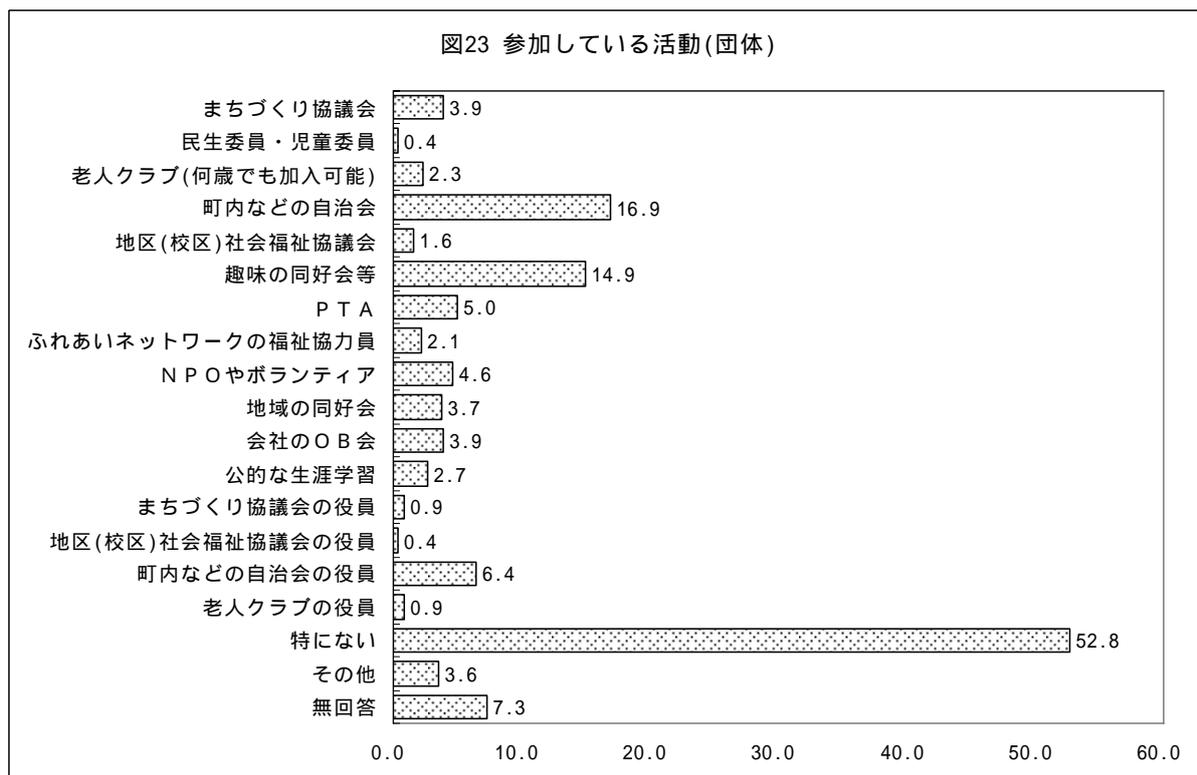
表8 景気の回復を感じる生活面

	賃金	賃金を除く 仕事の活動 予算面	仕事におけ る精神的ゆ とり	仕事 の取引 先などの変 化	物価	旅行やレジ ヤ	景気 の回復 を感じない
男性	3.7	2.5	4.1	2.5	4.5	3.3	74.6
女性	6.1	1.3	3.2	2.2	7.0	7.6	69.4
20歳代	11.4	-	-	-	11.4	2.3	70.5
30歳代	5.6	-	4.2	2.8	1.4	7.0	78.9
40歳代	6.7	5.6	4.5	3.4	5.6	5.6	73.0
50歳代	6.1	2.0	3.0	5.1	4.0	4.0	72.7
60歳代	5.0	1.4	5.0	2.1	7.1	8.5	67.4
70歳以上	-	0.8	2.5	-	6.7	5.0	71.7
未婚	8.1	-	4.0	-	6.1	3.0	76.8
既婚	4.3	2.5	3.5	2.8	5.8	7.3	70.2
既婚（離別など）	4.3	-	2.9	2.9	5.8	1.4	73.9
自営業・会社経営	2.4	2.4	4.8	7.1	7.1	7.1	71.4
事務的職業	5.0	7.5	2.5	5.0	5.0	5.0	70.0
事務系専門職・販売的職業	5.4	2.7	2.7	5.4	-	5.4	75.7
通信、運輸、サービス・保安	10.9	2.2	10.9	2.2	4.3	2.2	69.6
技術・技能系職業	12.3	6.2	4.6	3.1	3.1	3.1	72.3
学生、その他	5.3	-	7.9	-	5.3	2.6	81.6
専門職的職業	2.0	-	6.1	4.1	6.1	12.2	71.4
公務員	4.5	-	4.5	-	4.5	9.1	77.3
無職	0.9	-	-	0.9	5.7	3.8	74.5
家事専業（無職の）	3.7	-	-	-	10.3	9.3	66.4
自営・会社経営	3.4	3.4	8.5	8.5	10.2	5.1	62.7
家族従業者	-	-	8.3	-	-	-	83.3
正社員・正規職員	6.2	2.8	4.1	3.4	3.4	5.5	73.1
派遣社員・契約社員	6.7	13.3	20.0	6.7	-	-	66.7
パート・アルバイトなど	10.8	2.4	6.0	1.2	6.0	4.8	71.1
嘱託、臨時・日雇い、内職	12.5	-	-	-	6.3	12.5	75.0
仕事をしていない	1.9	-	-	0.5	7.0	7.0	72.3
その他	-	-	-	-	8.3	8.3	91.7

地域活動や社会関係と全体的生活満足感の関連性

1 地域活動への参加と全体的生活満足感の関連性

図23に示す通り、地域の活動に参加している人といない人が各5割程度である。参加している主な活動は「町内などの自治会」「趣味の同好会等」であるが、前者のほとんどは加入しているだけで、「町内など自治会の役員」にならなければ実際の活動は伴わないのが実情であろう。



この結果を全体的生活満足感に「満足している」「どちらかといえば満足している」「どちらともいえない」「どちらかといえば不満である」「不満である」の順に2、1、0、-1、-2点と配点し、地域活動の内容別に属性別記述統計量を表9に示した。

表9によると、平均値が全体の平均値0.662を下回っているのは「P T A」「まちづくり協議会の役員」「特にない(参加している活動がない)」の三者のみであり、他の地域活動参加者の全体的生活満足感はいずれも全体の平均値を上回っている。ただし、「民生委員・児童委員」「地区(校区)社会福祉協議会」「まちづくり協議会の役員」「地区(校区)社会福祉協議会の役員」「老人クラブの役員」等は回答者数も少なく、一人が役員を重複している場合もある。この結果を「特にない(参加している活動がない)」と「何らかの地域活動に参加している」に分けて、記述統計量を示したのが表10である。平均値の差の検定では有意な結果になった。

表9 参加したり役員をしている活動（複数回答）別全体的生活満足感記述統計量

	度数	最大値	最小値	平均値	標準偏差
全体	564	2	-2	0.662	1.087
まちづくり協議会	22	2	-2	0.818	1.181
民生委員・児童委員	2	2	1	1.500	0.707
老人クラブ(何歳でも加入可能)	13	2	0	1.417	0.669
町内などの自治会	95	2	-2	0.763	1.165
地区(校区)社会福祉協議会	9	2	1	1.444	0.527
趣味の同好会等	84	2	-2	0.917	0.853
P T A	28	2	-2	0.464	1.290
ふれあいネットワークの福祉協力員	12	2	-1	1.167	0.937
N P Oやボランティア	26	2	-1	1.154	0.732
地域の同好会	21	2	-2	0.789	0.976
会社のO B会	22	2	-2	0.818	1.053
公的な生涯学習	15	2	-2	0.867	1.187
まちづくり協議会の役員	5	2	-2	0.600	1.517
地区(校区)社会福祉協議会の役員	2	1	1	1.000	0.000
町内などの自治会の役員	36	2	-2	0.917	1.156
老人クラブの役員	5	2	1	1.400	0.548
特にない	297	2	-2	0.544	1.113
その他	20	2	-1	0.895	1.049

表10 地域活動への参加有無別記述統計量

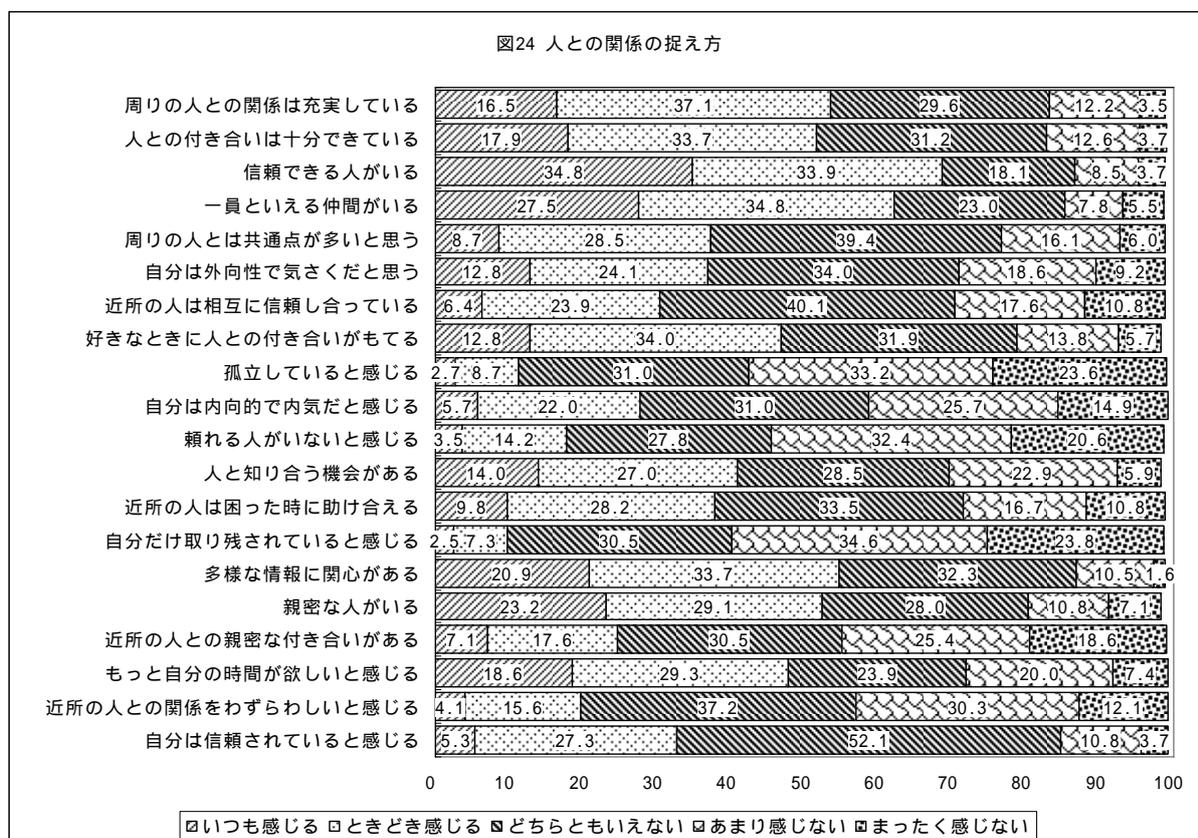
地域活動参加	度数	平均値	標準偏差
参加していない	294	0.544	1.113
参加している	260	0.796	1.044

表10に示した記述統計量の平均値の差の検定結果は、 $t=-2.737$ 、 $df=552$ 、 $P<.01$ である。これにより、地域活動に参加していない人に比べて参加している人の全体的生活満足感が有意に高いという結果になった。

2 社会関係の認知と全体的生活満足感の関連性

図 24 は周りの人と自己との関係をどのように感じているかを質問した 20 項目について示している。これは自己が他者との関係を捉えている社会的認知でもある。この結果によると「孤立している」「自分だけ取り残されている」「頼れる人がいない」とともに「近所の人と親密な付き合いがある」についても「いつも感じる」「時々感じる」が少ない。前三者は社会的孤立を示唆しているが、「近所の人と親密な付き合いがある」はこれとは逆の意味をもつ。「近所の人との関係をわずらわしいと感じる」は社会関係に関して否定的な態度である。このように「いつも感じる」「時々感じる」「どちらともいえない」「あまり感じない」「まったく感じない」により、社会関係では肯定にも否定にもなる。図 24 では「孤立している」「自分は内向的で内気だ」「頼れる人がいない」「自分だけ取り残されている」「もっと自分の時間が欲しいと感じる」「近所の人との関係をわずらわしい」は否定的である。

図によると「孤立している」「頼れる人がいない」「自分だけ取り残されている」「自分は内向的で内気だ」「近所の人との関係をわずらわしい」に関しては「いつも感じる」「時々感じる」は少ない。概ね「周りの人との関係は充実」し、「人との付き合いは十分できて」「おり、「信頼できる人」「一員といえる仲間」がいる。一方で「近所の人との相互信頼」は不十分であり、「近所の人との関係をわずらわしい」と感じている面もある。



これらの社会関係別に全体的生活満足感の記述統計量を示したのが表 11 である。上述した通り、全体的生活満足感は「満足している」から「不満である」までを-2~2 点と配点し、社会関係の ~ は「あまり感じない」「まったく感じない」と「いつも感じる」「時々感じる」を「感じない」「感じる」にまとめて「どちらともいえない」は除外した。p は平均値の差の検定による有意確率(両側)で、**は 1%水準で有意であることを示す。「多様な情報に関心がある」「もっと自分の時間が欲しいと感じる」以外は 1%水準で有意であった。この結果から、他者との関係の認知で、関係を良好と捉えている人の方が全体的生活満足感は有意に高いといえる。

表 11 全体的生活満足感の社会関係の認知別記述統計量

		度数	平均値	標準偏差	P
周りの人との関係は充実している	感じない	89	-0.067	1.241	**
	感じる	302	0.929	0.977	
人との付き合いは十分できている	感じない	92	-0.033	1.293	**
	感じる	291	0.926	0.976	
信頼できる人がいる	感じない	69	-0.014	1.157	**
	感じる	387	0.813	1.039	
一員といえる仲間がいる	感じない	75	0.173	1.190	**
	感じる	351	0.816	1.028	
周りの人とは共通点が多いと思う	感じない	125	0.213	1.201	**
	感じる	210	0.932	1.017	
自分は外向性で気さくだと思う	感じない	157	0.342	1.159	**
	感じる	208	0.917	0.964	
近所の人とは相互に信頼し合っている	感じない	160	0.430	1.191	**
	感じる	171	0.880	1.066	
好きなときに人との付き合いがもてる	感じない	110	0.167	1.180	**
	感じる	264	0.965	0.924	
孤立していると感じる	感じない	64	-0.111	1.284	**
	感じる	320	0.875	0.987	
自分は内向的で内気だと感じる	感じない	156	0.439	1.179	**
	感じる	229	0.803	1.034	
頼れる人がいないと感じる	感じない	100	0.192	1.235	**
	感じる	299	0.921	0.969	

表 11 全体的生活満足感の社会関係の認知別記述統計量(続き)

人と知り合う機会がある	感じない	162	0.409	1.115	**
	感じる	231	0.877	0.995	
近所の人困った時に助け合える	感じない	155	0.487	1.201	**
	感じる	214	0.901	0.985	
自分だけ取り残されていると感じる	感じない	55	-0.127	1.292	**
	感じる	329	0.910	0.967	
多様な情報に関心がある	感じない	68	0.727	1.060	
	感じる	308	0.751	1.062	
親密な人がいる	感じない	101	0.250	1.123	**
	感じる	295	0.872	1.023	
近所の人との親密な付き合いがある	感じない	248	0.480	1.116	**
	感じる	139	0.985	1.004	
もっと自分の時間が欲しいと感じる	感じない	270	0.609	1.115	
	感じる	155	0.743	1.020	
近所の人との関係をわずらわしいと感じる	感じない	111	0.486	1.252	**
	感じる	239	0.814	0.997	
自分は信頼されていると感じる	感じない	82	0.222	1.107	**
	感じる	184	0.955	1.016	

生活のゆとり感と全体的生活満足感の関連性

ここまで検討してきた結果、全体的生活満足感には生活の全体的ゆとり感の中の「経済面の全体的ゆとり」、経済面のゆとりの中の「老後の備え」「教育や子育て資金」「病気などの万一の備え」、日常生活でのゆとりの中の「将来に関するゆとり」「家族の介護のゆとり」が関連している。また、地域活動への参加、社会関係の認知も関連性が高いと推測できる。以下ではこれらと全体的生活満足感の関連性について検討する。以下で記述統計量は既に表4～6等に示しているために省略する。相関係数はJMP9を用いている。

1 全体的ゆとり感と全体的生活満足感の関連性

記述統計量は表4に示しているため、表12には全体的ゆとり感と全体的生活満足感の相関係数を示した。この結果からも明らかな通り、全体的生活満足感と経済面の全体的ゆとり感の関連性が高いことがわかる。時間面や居住空間面の関連性は弱い。なお、相関係数は絶対値が大きいほど関連性が増すことになるが、基準が明確なわけではない。ここでは「0.7～1.0 かなり強い関連」、「0.4～0.7 関連あり」、「0.2～0.4 弱い関連」、「0.0～0.2 ほとんど関連なし」を基準とする。表中の**は1%、*は5%の有意水準を示す。

表12 全体的ゆとり感と全体的生活満足感の相関関係

	全体的生活満足感
経済面の全体的ゆとり	.531**
時間面の全体的ゆとり	.201**
居住空間面の全体的ゆとり	.365**
精神面の全体的ゆとり	.484**
総合的に見た場合の生活をゆとり	.598**

2 経済面のゆとり感と全体的生活満足感の関連性

表13には経済面のゆとり感5項目と全体的生活満足感のペアによる相関係数を示した。ここまでの検討から、全体的生活満足感と経済面の関連性は高いと推測したのであるが、図が示す通り、～すべてで関連ありを示している。ただし、上述した内容とは多少異なっているのは、「老後の備え」「教育や子育て資金」「病気など万一の場合の経済的余裕」と「毎日の生活費」「交際費・娯楽費」の関連性に差がなく、むしろ「老後の備え」の関連性が低めであることである。上記の検討からは「老後の備え」が強い関連性があると考えられたのであるが、結果はそうではなかった。記述統計量は表5に示している。

表 13 経済面のゆとり感と全体的生活満足感の相関関係

	全体的生活満足感
毎日の生活費	.511**
病気など万一の場合の経済的余裕	.507**
教育や子育て資金	.510**
老後の備え	.487**
交際費・娯楽費	.503**

3 日常生活のゆとり感と全体的生活満足感の関連性

表 14 に示す通り、日常生活のゆとり感とした ~ 各項目と全体的生活満足感の間には「将来に関するゆとり」のみ関連性があり、「家族の介護のゆとり」も含め、他は 0.2~0.4 弱い関連がある程度であった。この記述統計量は表 6 に示している。

表 14 日常生活のゆとり感と全体的生活満足感の相関関係

	全体的生活満足感
家事や育児のゆとり	.329**
家族の介護のゆとり	.303**
家族関係のゆとり	.393**
将来に関するゆとり	.490**
余暇時間	.269**

以上の関連性の結果から、全体的生活満足感と経済面の関連性が他の生活の側面よりも強いことがわかる。ただし、ここまでの検討の結果として関連性が高いとして上述した「老後の備え」「教育や子育て資金」「病気などの万一の備え」、日常生活でのゆとりの中の「将来に関するゆとり」「家族の介護のゆとり」は関連性はあるものの、予測したような他と大差があるといえるほどの関連性は認められなかった。

4 社会関係の認知と全体的生活満足感の関連性

社会関係の認知は、自己と他者の関係をどのように捉えているかを表している。この項目は UCLA 孤独感尺度を参考に作成した。表 15 にはその基本統計量を示している。配点は「いつも感じる」「時々感じる」「どちらともいえない」「あまり感じない」「まったく感じない」の順に 2、1、0、-1、-2 とした。ただし、「孤立していると感じる」「自分は内向的で内気だと感じる」「頼れる人がいないと感じる」「自分だけ取り残され

ていると感じる」「もっと自分の時間が欲しいと感じる」「近所の人との関係をわずらわしいと感じる」は逆の配点をした。

表 15 社会関係の認知の記述統計量

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
周りの人との関係は充実している	558	-2	2	0.513	1.023
人との付き合いは十分できている	559	-2	2	0.499	1.045
信頼できる人がいる	558	-2	2	0.884	1.098
一員といえる仲間がいる	556	-2	2	0.719	1.120
周りの人とは共通点が多いと思う	557	-2	2	0.180	1.009
自分は外向的で気さくだと思う	557	-2	2	0.127	1.144
近所の人とは相互に信頼し合っている	557	-2	2	-0.025	1.057
好きなときに人との付き合いがもてる	554	-2	2	0.350	1.057
孤立していると感じる	559	-2	2	0.669	1.018
自分は内向的で内気だと感じる	560	-2	2	0.223	1.123
頼れる人がいないと感じる	556	-2	2	0.531	1.083
人と知り合う機会がある	554	-2	2	0.208	1.129
近所の人とは困った時に助け合える	558	-2	2	0.095	1.131
自分だけ取り残されていると感じる	556	-2	2	0.709	.994
多様な情報に関心がある	558	-2	2	0.625	.983
親密な人がいる	554	-2	2	0.514	1.174
近所の人との親密な付き合いがある	559	-2	2	-0.311	1.173
もっと自分の時間が欲しいと感じる	560	-2	2	-0.318	1.203
近所の人との関係をわずらわしいと感じる	560	-2	2	0.309	1.009
自分は信頼されていると感じる	560	-2	2	0.198	.843

他者との関係からの自己の捉え方（社会関係の認知）で平均値が高いのは「信頼できる人がいる」「自分だけ取り残されていると感じる」「一員といえる仲間がいる」「孤立していると感じる」「頼れる人がいないと感じる」「周りの人との関係は充実している」「人との付き合いは十分できている」等である。

標準偏差が小さい項目は「多様な情報に関心がある」「自分は信頼されていると感じる」「自分だけ取り残されていると感じる」であり、これらの項目はバラツキが小さいことを示している。

「自分だけ取り残されていると感じる」「孤立していると感じる」「頼れる人が

いないと感じる」に関しては「いつも感じる」に-2、「ときどき感じる」に-1、「どちらともいえない」に0、「あまり感じない」に1、「まったく感じない」に2と配点していることから、平均値が高いことは「自分だけ取り残されていると感じる」「孤立していると感じる」「頼れる人がいないと感じる」人が少ないことを示している。

平均値が低いのは「もっと自分の時間が欲しいと感じる」「近所の人との親密な付き合いがある」「近所の人とは相互に信頼し合っている」「近所の人とは困った時に助け合える」「周りの人とは共通点が多いと思う」「自分は外向性で気さくだと思う」などであり、近所の人との信頼関係やお互い様の親密な付き合いができていないと捉えている。

表 16 社会関係の認知と全体的生活満足感の相関関係

	全体的生活満足感
周りの人との関係は充実している	.344**
人との付き合いは十分できている	.328**
信頼できる人がいる	.278**
一員といえる仲間がいる	.230**
周りの人とは共通点が多いと思う	.248**
自分は外向性で気さくだと思う	.218**
近所の人とは相互に信頼し合っている	.175**
好きなときに人との付き合いがもてる	.279**
孤立していると感じる	.302**
自分は内向的で内気だと感じる	.151**
頼れる人がいないと感じる	.282**
人と知り合う機会がある	.202**
近所の人とは困った時に助け合える	.198**
自分だけ取り残されていると感じる	.332**
多様な情報に関心がある	.061
親密な人がいる	.216**
近所の人との親密な付き合いがある	.212**
もっと自分の時間が欲しいと感じる	.045
近所の人との関係をわずらわしいと感じる	.122**
自分は信頼されていると感じる	.238**

表 16 には社会関係の認知と全体的生活満足感の関連性を示した。これによると、6項目で関連性が認められず、残りの項目も0.4に満たない弱い関連があるにすぎない。「いつも感じる」「ときどき感じる」をまとめて「感じる」とし、「あまり感じない」「まったく感じない」を「感じない」としてまとめて表 11 に示した平均値の差の検定結果では「感じる」方が有意に全体的生活満足感が高かったのであるが、相関関係（一方が変化すると他方も変化する）では弱いという結果である。

5 地域活動への参加と全体的生活満足感の関連性

地域活動への参加は表 10 に示した参加の有無と同様に何らかの地域活動に参加している人と特に参加していない人に分けて、「地域活動に参加している人」2、「地域活動に参加していない人」1点を配点して記述統計量を示している。表 17 には全体的生活満足感の記述統計量も示している。表 18 はこの配点による地域活動への参加と全体的生活満足感の関連を示している。この地域活動への参加の有無も社会関係の認知と同様、参加している人の全体的生活満足感の平均値が高く、関連性を予測したのであるが、ほとんど関連がないという結果である。

表 17 地域活動への参加の記述統計量

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
全体的生活満足度得点	554	-2	2	.66	1.087
地域活動参加	564	1	2	1.47	.500

表 18 地域活動への参加と全体的生活満足感の相関関係

	全体的生活満足感
地域活動参加	.116**

おわりに

全体的生活満足感は調査をすれば、概ね常に高いという結果は何が要因となり、何と関連性が強いために、常に高く維持され続けるのかを探るのがここまでの目的であった。そのために関連するであろうと推測した「生活面のゆとり」という曖昧な調査項目を設定した。曖昧なために分析する視点も曖昧にならざるを得ないのであるが、この他に地域活動への参加や社会関係の認知に関する項目を含め、これらが全体的生活満足感に関連する何かを生じさせるのではないかと分析の視点に据えたのであるが、全体的生活満足感自体が曖昧なために、結果は曖昧なままである。経済面よりは安定していると考えられる地域活動への参加や社会関係の認知の違いによる全体的生活満足感の有無得点では、平均値の

差の検定などによると有意性を示しても相関関係では強い関連性を認められなかった。このため、全体的生活満足感を常に高く維持する「何か」を生じさせる要因を特定できないままである。

1 「経済面の全体的ゆとり」と「精神面の全体的ゆとり」感

生活の全体的ゆとり感という曖昧な項目では、全体的生活満足感を常に高く維持する「何か」について、生活の「経済面の全体的ゆとり」と「精神面の全体的ゆとり」に関連性が認められた。経済面の中でも「毎日の生活費」「教育や子育て資金」など日常で直面することや、「将来に関するゆとり」ともいえる「病気など万一の場合の経済的余裕」「老後の備え」などが関連していることが分かった。

精神面では「将来に関するゆとり」に象徴される不確実性が関連している。「毎日の生活費」よりも不確実な「病気など万一の場合の経済的余裕」「老後の備え」などがそれである。

2 地域活動参加や社会関係の認知

精神面のゆとりに関連することとしては、上記の不確実性ととも社会関係の認知や近所の人とのお互い様の信頼関係などを考えることができる。地域活動への参加を通して近所の人との親密度や信頼関係が出来上がることが精神面のゆとりを生じさせる要因と考えて地域活動の有無を、さらに他者との関係の認知が精神面のゆとりを生じさせる要因と予測して分析したのであるが、これらに関しては明確な結果が得られていない。表 19 には地域活動参加と主なゆとり感との関連性を示したが、関連性は認められなかった。

表 19 地域活動参加とゆとり感の相関関係

ゆとり感	地域活動への参加
全体的経済面でのゆとり	.151**
全体的精神面でのゆとり	.156**
生活を総合的に見た場合のゆとり	.163**
毎日の生活費	.125**
病気など万一の場合の経済的余裕	.066
教育や子育て資金	.183**
老後の備え	.145**
交際費・娯楽費	.110**
家事や育児のゆとり	.096*
家族の介護のゆとり	.142**
家族関係のゆとり	.096*
将来に関するゆとり	.173**

表 20 に「社会関係の認知」と「ゆとり感」、「地域活動への参加」との関連性を示した。肯定的な社会関係の認知と生活満足感に関連性の高かった経済面、精神面のゆとり感を示す項目との関連性を表は示しているが、弱い関連性は認められるものの 0.4 を超える関連性を認められる項目がない。この結果、全体的生活満足感は生活の経済面のゆとりや精神面のゆとりと関連性が認められるものの、そのゆとりが安定しているであろう地域活動への参加や社会関係の認知ではない、何かにより生ずるのかは不明である。

表 20 社会関係の認知とゆとり感の相関関係

	充 美 周 り の 人 と の 関 係 は	分 で き て い る 人 と の 付 き 合 い は 十	信 頼 で き る 人 が い る	い る 一 員 と い え る 仲 間 が	親 密 な 人 が い る	頼 し 合 っ て い る 近 所 の 人 は 相 互 に 信	に 助 け 合 え る 近 所 の 人 は 困 っ た 時	付 き 合 い が あ る 近 所 の 人 と の 親 密 な	ら わ し い と 感 じ る 近 所 の 人 と の 関 係 を わ ず
全体的経済面でのゆとり	.219**	.233**	.194**	.186**	.151**	.152**	.109*	.193**	.152**
全体的時間面でのゆとり	.143**	.152**	.113**	.038	.107*	.155**	.167**	.173**	.121**
全体的居住空間面でのゆとり	.214**	.194**	.174**	.178**	.146**	.156**	.155**	.158**	.109*
全体的精神面でのゆとり	.326**	.337**	.226**	.190**	.214**	.213**	.195**	.185**	.203**
毎日の生活費	.263**	.291**	.240**	.195**	.167**	.169**	.113**	.157**	.217**
病気など万一の場合の経済的余裕	.237**	.248**	.228**	.204**	.190**	.144**	.088*	.167**	.143**
教育や子育て資金	.277**	.256**	.242**	.196**	.186**	.181**	.139**	.186**	.137**
老後の備え	.214**	.238**	.174**	.146**	.147**	.229**	.193**	.272**	.155**
家事や育児のゆとり	.158**	.181**	.148**	.111*	.103*	.145**	.157**	.092*	.119**
家族の介護のゆとり	.189**	.196**	.159**	.130**	.092*	.172**	.100*	.109*	.090*
家族関係のゆとり	.306**	.288**	.252**	.226**	.165**	.248**	.184**	.172**	.170**
将来に関するゆとり	.252**	.255**	.190**	.193**	.213**	.186**	.170**	.202**	.211**
地域活動参加	.236**	.239**	.185**	.222**	.214**	.244**	.216**	.282**	.154**

[参考文献]

橋木俊詔「いま、働くということ」ミネルヴァ書房、2011

ジョン・T・カシオポ&ウイリアム・パトリック著/柴田裕之訳「孤独の科学」河出書房新社、2010

三木準一「雇用形態の多様化と雇用調整」経済政策研究第2号、2006、pp139-166

資料

資料 1 調査の概要

(1)調査対象

北九州市に居住する 20～79 歳までの 1,500 人。

(2)調査期間

2014 年 1 月 6 日～1 月 27 日

(3)調査方法

調査票を郵送により送付し、回答後に郵送により返送する郵送留置法。

(4)調査対象者の選び方

選挙人名簿から所定の手続きを経て、無作為抽出（系統抽出）法による。

(5)回収率等

配布調査票	1,500
回収調査票	565(無効 1)(他に宛先不明返送 14)
回収率	37.7%
有効回収票	564
有効回収率	37.6%

資料2 基本属性

全体	564	100.0				
性別	度数	構成比	年齢5歳区分	度数	構成比	
男性	244	43.3	20～24歳	19	3.4	
女性	314	55.7	25～29歳	25	4.4	
無回答	6	1.1	30～34歳	28	5.0	
年齢10歳区分			35～39歳	43	7.6	
20歳代	44	7.8	40～44歳	50	8.9	
30歳代	71	12.6	45～49歳	39	6.9	
40歳代	89	15.8	50～54歳	50	8.9	
50歳代	99	17.6	55～59歳	49	8.7	
60歳代	141	25.0	60～64歳	76	13.5	
70歳以上	120	21.3	65～69歳	65	11.5	
家族構成			70～74歳	79	14.0	
ひとり暮らし	73	12.9	75歳以上	41	7.3	
夫婦のみ	174	30.9	配偶関係			
親世代との二世世代家族	88	15.6	未婚	99	17.6	
子世代との二世世代家族	179	31.7	既婚(現在、夫または妻がいる)	396	70.2	
親・子・孫・その他の親族の三世世代家族	33	5.9	既婚(配偶者と離別または死別)	69	12.2	
その他	14	2.5	居住年数			
無回答	3	0.5	1年未満	8	1.4	
住宅			1～4年	40	7.1	
一戸建て(借家)	46	8.2	5～9年	30	5.3	
一戸建て(持ち家)	278	49.3	10年以上	313	55.5	
アパート、マンションなどの共同住宅(借家)	78	13.8	生まれてからずっと	165	29.3	
アパート、マンションなどの共同住宅(持ち家)	105	18.6	無回答	8	1.4	
公営の借家(公団住宅、市営住宅など)	41	7.3				
勤め先の寮や職員住宅	12	2.1				
その他	4	0.7				

職種	度数	構成比
自営業・会社経営	42	7.4
事務的職業（一般事務、外勤事務、集金人など）	40	7.1
事務系専門職（医療事務、オペレーターなど）	13	2.3
販売的職業（商品の販売、店員、営業・セールスなど）	24	4.3
技術・技能系職業（製造、加工、組立、建設、その他技術者、作業員など）	65	11.5
通信系技術者（パソコンネットワーク設定・管理、プログラミング・情報処理など）	3	0.5
運輸系職業（電車・車・配送運転手・助手、荷役などの作業など）	12	2.1
サービスの・保安的職業（理容・美容、接客、清掃、警備など）	31	5.5
専門職的職業（医師、看護師、薬剤師、保健師、弁護士、教師、研究職、宗教家など）	49	8.7
公務員（行政職や警察官、消防官など）	22	3.9
無職	106	18.8
家事専業（無職の）	107	19.0
学生	9	1.6
その他	29	5.1
無回答	12	2.1
就業形態	度数	構成比
自営・会社経営	59	10.5
家族従業者	12	2.1
正社員・正規職員	145	25.7
派遣社員・契約社員	15	2.7
パート・アルバイトなど	83	14.7
嘱託など	11	2.0
臨時・日雇いなど	4	0.7
内職	1	0.2
仕事をしていない	213	37.8
その他	12	2.1
無回答	9	1.6

資料3 記述統計量

(1) 全体的ゆとり感の記述統計量

表1 全体的経済面でのゆとり記述統計量

		度数	平均値	最小値	最大値	標準偏差
年代	20歳代	44	2.250	1	4	0.866
	30歳代	71	2.423	1	4	0.839
	40歳代	89	2.352	1	4	0.695
	50歳代	99	2.398	1	4	0.770
	60歳代	141	2.457	1	4	0.674
	70歳以上	120	2.586	1	4	0.591
配偶関係	未婚	99	2.182	1	4	0.800
	既婚(現在、夫または妻がいる)	396	2.506	1	4	0.680
	既婚(配偶者と離別または死別)	69	2.403	1	4	0.760
職種	自営業・会社経営	42	2.310	1	4	0.811
	事務的職業	40	2.500	1	4	0.751
	事務系専門職	13	2.231	1	4	0.927
	販売的職業	24	2.375	1	3	0.647
	技術・技能系職業	65	2.349	1	4	0.676
	通信系技術者	3	1.667	1	2	0.577
	運輸系職業	12	2.250	1	4	0.754
	サービスの・保安的職業	31	2.032	1	3	0.752
	専門職的職業	49	2.750	1	4	0.700
	公務員	22	2.636	1	4	0.658
	無職	106	2.515	1	4	0.698
	家事専業(無職の)	107	2.486	1	4	0.667
	学生	9	2.333	2	3	0.500
就業形態まとめ	自営・会社経営	59	2.475	1	4	0.817
	家族従業者	12	2.000	1	3	0.603
	正社員・正規職員	145	2.549	1	4	0.688
	派遣社員・契約社員	15	2.267	1	3	0.704
	パート・アルバイトなど	83	2.146	1	4	0.772
	嘱託、臨時・日雇い、内職など	16	2.333	1	3	0.617
	仕事をしていない	213	2.481	1	4	0.681

表2 全体的時間面でのゆとり記述統計量

		度数	平均値	最小値	最大値	標準偏差
年代	20歳代	44	2.364	1	4	0.838
	30歳代	71	2.479	1	4	0.808
	40歳代	89	2.356	1	4	0.792
	50歳代	99	2.653	1	4	0.719
	60歳代	141	2.993	2	4	0.733
	70歳以上	120	3.157	2	4	0.657
配偶関係	未婚	99	2.582	1	4	0.896
	既婚（現在、夫または妻がいる）	396	2.758	1	4	0.765
	既婚（配偶者と離別または死別）	69	2.954	1	4	0.837
職種	自営業・会社経営	42	2.524	1	4	0.740
	事務的職業	40	2.500	1	4	0.816
	事務系専門職	13	2.000	1	3	0.577
	販売的職業	24	2.542	1	4	0.658
	技術・技能系職業	65	2.365	1	4	0.703
	通信系技術者	3	2.333	1	4	1.528
	運輸系職業	12	2.417	1	4	1.084
	サービスの・保安的職業	31	2.300	1	4	0.750
	専門職的職業	49	2.396	1	4	0.676
	公務員	22	2.591	1	4	0.666
	無職	106	3.366	2	4	0.595
	家事専業（無職の）	107	3.076	1	4	0.703
	学生	9	2.889	2	4	0.601
	就業形態まとめ	自営・会社経営	59	2.559	1	4
家族従業者		12	2.667	1	4	0.888
正社員・正規職員		145	2.299	1	4	0.700
派遣社員・契約社員		15	2.333	1	3	0.617
パート・アルバイトなど		83	2.519	1	4	0.743
嘱託、臨時・日雇い、内職など		16	2.733	2	4	0.704
仕事をしていない		213	3.238	1	4	0.668

表3 全体的居住空間面でのゆとり記述統計量

		度数	平均値	最小値	最大値	標準偏差
年代	20歳代	44	2.837	1	4	0.785
	30歳代	71	2.831	1	4	0.793
	40歳代	89	2.727	1	4	0.754
	50歳代	99	2.888	1	4	0.758
	60歳代	141	2.912	1	4	0.702
	70歳以上	120	2.991	2	4	0.605
配偶関係	未婚	99	2.786	1	4	0.828
	既婚（現在、夫または妻がいる）	396	2.894	1	4	0.688
	既婚（配偶者と離別または死別）	69	2.923	1	4	0.756
職種	自営業・会社経営	42	2.786	1	4	0.782
	事務的職業	40	2.875	2	4	0.686
	事務系専門職	13	2.538	1	3	0.660
	販売的職業	24	2.917	2	4	0.584
	技術・技能系職業	65	2.603	1	4	0.773
	通信系技術者	3	2.000	1	3	1.000
	運輸系職業	12	2.750	1	4	0.965
	サービスの・保安的職業	31	2.548	1	4	0.723
	専門職的職業	49	2.833	1	4	0.781
	公務員	22	3.000	1	4	0.690
	無職	106	3.120	1	4	0.624
	家事専業（無職の）	107	2.971	2	4	0.642
	学生	9	3.250	3	4	0.463
就業形態まとめ	自営・会社経営	59	2.948	1	4	0.759
	家族従業者	12	2.667	1	4	0.778
	正社員・正規職員	145	2.736	1	4	0.738
	派遣社員・契約社員	15	2.933	2	4	0.458
	パート・アルバイトなど	83	2.671	1	4	0.754
	嘱託、臨時・日雇い、内職など	16	2.867	1	4	0.834
	仕事をしていない	213	3.063	1	4	0.642

表4 全体的精神面でのゆとり記述統計量

		度数	平均値	最小値	最大値	標準偏差
年代	20歳代	44	2.545	1	4	0.761
	30歳代	71	2.620	1	4	0.763
	40歳代	89	2.466	1	4	0.742
	50歳代	99	2.510	1	4	0.707
	60歳代	141	2.745	1	4	0.665
	70歳以上	120	2.741	1	4	0.668
配偶関係	未婚	99	2.394	1	4	0.843
	既婚（現在、夫または妻がいる）	396	2.670	1	4	0.652
	既婚（配偶者と離別または死別）	69	2.712	1	4	0.780
職種	自営業・会社経営	42	2.571	1	4	0.770
	事務的職業	40	2.625	1	4	0.667
	事務系専門職	13	2.154	1	3	0.801
	販売的職業	24	2.583	2	4	0.584
	技術・技能系職業	65	2.524	1	4	0.737
	通信系技術者	3	1.667	1	2	0.577
	運輸系職業	12	2.417	2	4	0.669
	サービスの・保安的職業	31	2.452	1	4	0.768
	専門職的職業	49	2.625	1	4	0.606
	公務員	22	2.591	1	3	0.666
	無職	106	2.770	1	4	0.723
	家事専業（無職の）	107	2.748	1	4	0.710
	学生	9	2.889	2	4	0.601
就業形態まとめ	自営・会社経営	59	2.525	1	4	0.653
	家族従業者	12	2.667	1	4	0.985
	正社員・正規職員	145	2.535	1	4	0.647
	派遣社員・契約社員	15	2.667	2	3	0.488
	パート・アルバイトなど	83	2.476	1	4	0.773
	嘱託、臨時・日雇い、内職など	16	2.667	2	3	0.488
	仕事をしていない	213	2.778	1	4	0.721

表5 生活を総合的に見た場合のゆとり記述統計量

		度数	平均値	最小値	最大値	標準偏差
年代	20歳代	44	2.477	1	4	0.664
	30歳代	71	2.634	1	4	0.741
	40歳代	89	2.523	1	4	0.694
	50歳代	99	2.582	1	4	0.717
	60歳代	141	2.652	1	4	0.635
	70歳以上	120	2.730	1	4	0.597
配偶関係	未婚	99	2.374	1	4	0.737
	既婚（現在、夫または妻がいる）	396	2.696	1	4	0.619
	既婚（配偶者と離別または死別）	69	2.537	1	4	0.765
職種	自営業・会社経営	42	2.476	1	4	0.804
	事務的職業	40	2.625	2	4	0.586
	事務系専門職	13	2.231	1	3	0.725
	販売的職業	24	2.708	2	4	0.550
	技術・技能系職業	65	2.492	1	3	0.644
	通信系技術者	3	1.667	1	2	0.577
	運輸系職業	12	2.500	2	4	0.674
	サービスの・保安的職業	31	2.323	1	3	0.748
	専門職的職業	49	2.771	1	4	0.592
	公務員	22	2.818	2	4	0.501
	無職	106	2.686	1	4	0.689
	家事専業（無職の）	107	2.714	1	4	0.646
	学生	9	2.778	2	3	0.441
就業形態まとめ	自営・会社経営	59	2.576	1	4	0.747
	家族従業者	12	2.417	1	3	0.793
	正社員・正規職員	145	2.639	1	4	0.562
	派遣社員・契約社員	15	2.600	2	3	0.507
	パート・アルバイトなど	83	2.402	1	4	0.751
	嘱託、臨時・日雇い、内職など	16	2.667	1	3	0.617
	仕事をしていない	213	2.700	1	4	0.666

(2) 経済面でのゆとり感の記述統計量

属性別に検討しなかった図 6 と表 5 に示した経済面でのゆとり感に関して、項目別の平均値を属性別に表 6 ～ 10 に示した。上述した全体的ゆとり感で、ゆとり感の低かった職種を「通信系技術者、運輸系職業、サービスの・保安的職」「事務系専門職・販売的職業」にまとめ、「学生、その他」もまとめて示している。

表 6 毎日の生活費

		度数	平均値	最小値	最大値	標準偏差
性別	男性	244	2.725	1	4	0.665
	女性	314	2.662	1	4	0.780
年代	20 歳代	44	2.750	1	4	0.892
	30 歳代	71	2.746	1	4	0.788
	40 歳代	89	2.557	1	4	0.741
	50 歳代	99	2.602	1	4	0.685
	60 歳代	141	2.708	1	4	0.709
	70 歳以上	120	2.802	1	4	0.662
職種まとめ	自営業・会社経営	42	2.571	1	4	0.914
	事務的職業	40	2.800	2	4	0.648
	事務系専門職・販売的職業	37	2.595	1	4	0.599
	通信系技術者、運輸系職業、サービスの・保安的職	46	2.413	1	4	0.832
	技術・技能系職業	65	2.635	1	4	0.679
	学生、その他	38	2.676	1	4	0.747
	専門職的職業	49	2.917	1	4	0.679
	公務員	22	3.000	2	4	0.535
	無職	106	2.670	1	4	0.719
	家事専業(無職の)	107	2.752	1	4	0.731
就業形態まとめ	自営・会社経営	59	2.729	1	4	0.848
	家族従業者	12	2.500	1	3	0.674
	正社員・正規職員	145	2.825	1	4	0.609
	派遣社員・契約社員	15	2.600	2	3	0.507
	パート・アルバイトなど	83	2.415	1	4	0.816
	嘱託、臨時・日雇い、内職など	16	2.467	1	4	0.743
	仕事をしていない	213	2.707	1	4	0.733

表7 病気など万ーの場合の経済的余裕

		度数	平均値	最小値	最大値	標準偏差
性別	男性	244	2.342	1	4	0.765
	女性	314	2.372	1	4	0.842
年代	20歳代	44	2.295	1	4	0.978
	30歳代	71	2.479	1	4	0.876
	40歳代	89	2.227	1	4	0.798
	50歳代	99	2.347	1	4	0.775
	60歳代	141	2.355	1	4	0.753
	70歳以上	120	2.431	1	4	0.783
職種まとめ	自営業・会社経営	42	2.262	1	4	0.857
	事務的職業	40	2.450	1	4	0.815
	事務系専門職・販売的職業	37	2.189	1	4	0.776
	通信系技術者、運輸系職業、サービスの・保安的職	46	1.957	1	4	0.788
	技術・技能系職業	65	2.302	1	3	0.710
	学生、その他	38	2.316	1	4	0.873
	専門職的職業	49	2.688	1	4	0.829
	公務員	22	2.682	1	4	0.839
	無職	106	2.330	1	4	0.785
	家事専業(無職の)	107	2.457	1	4	0.760
就業形態まとめ	自営・会社経営	59	2.390	1	4	0.871
	家族従業者	12	2.167	1	3	0.718
	正社員・正規職員	145	2.507	1	4	0.748
	派遣社員・契約社員	15	2.267	1	3	0.704
	パート・アルバイトなど	83	2.073	1	4	0.858
	嘱託、臨時・日雇い、内職など	16	2.067	1	3	0.799
	仕事をしていない	213	2.385	1	4	0.778

表 8 教育や子育て資金

		度数	平均値	最小値	最大値	標準偏差
性別	男性	244	2.229	1	4	0.735
	女性	314	2.290	1	4	0.808
年代	20 歳代	44	2.049	1	4	0.973
	30 歳代	71	2.362	1	4	0.857
	40 歳代	89	2.125	1	3	0.708
	50 歳代	99	2.315	1	4	0.755
	60 歳代	141	2.283	1	4	0.685
	70 歳以上	120	2.354	1	4	0.743
職種 まとめ	自営業・会社経営	42	2.243	1	4	0.796
	事務的職業	40	2.289	1	4	0.927
	事務系専門職・販売的職業	37	2.147	1	3	0.657
	通信系技術者、運輸系職業、サービスの・保安的職	46	1.878	1	4	0.781
	技術・技能系職業	65	2.232	1	4	0.763
	学生、その他	38	2.219	1	4	0.792
	専門職的職業	49	2.604	1	4	0.707
	公務員	22	2.318	1	4	0.839
	無職	106	2.250	1	4	0.707
	家事専業（無職の）	107	2.356	1	4	0.734
就業 形態 まとめ	自営・会社経営	59	2.404	1	4	0.846
	家族従業者	12	2.083	1	3	0.515
	正社員・正規職員	145	2.348	1	4	0.761
	派遣社員・契約社員	15	2.231	1	3	0.599
	パート・アルバイトなど	83	2.027	1	4	0.805
	嘱託、臨時・日雇い、内職など	16	2.167	1	3	0.835
	仕事をしていない	213	2.255	1	4	0.753
	その他	12	2.600	2	4	0.699

表9 老後の備え

		度数	平均値	最小値	最大値	標準偏差
性別	男性	244	2.075	1	4	0.799
	女性	314	2.039	1	4	0.846
年代	30歳代	71	1.845	1	4	0.889
	40歳代	89	1.864	1	3	0.790
	50歳代	99	1.969	1	4	0.805
	60歳代	141	2.225	1	4	0.792
	70歳以上	120	2.310	1	4	0.762
職種まとめ	自営業・会社経営	42	1.976	1	4	0.897
	事務的職業	40	2.050	1	4	0.904
	事務系専門職・販売的職業	37	1.778	1	3	0.797
	通信系技術者、運輸系職業、サービスの・保安的職	46	1.674	1	4	0.790
	技術・技能系職業	65	1.905	1	3	0.734
	学生、その他	38	1.974	1	4	0.788
	専門職的職業	49	2.292	1	4	0.824
	公務員	22	2.364	1	4	0.848
	無職	106	2.204	1	4	0.784
	家事専業（無職の）	107	2.152	1	4	0.806
就業形態まとめ	自営・会社経営	59	2.169	1	4	0.950
	家族従業者	12	1.750	1	3	0.622
	正社員・正規職員	145	2.056	1	4	0.776
	派遣社員・契約社員	15	2.000	1	3	0.756
	パート・アルバイトなど	83	1.744	1	4	0.843
	嘱託、臨時・日雇い、内職など	16	2.000	1	3	0.926
	仕事をしていない	213	2.154	1	4	0.802
	その他	12	2.333	1	3	0.651

表 10 交際費・娯楽費

		度数	平均値	最小値	最大値	標準偏差
性別	男性	244	2.356	1	4	0.764
	女性	314	2.341	1	4	0.818
年代	20 歳代	44	2.500	1	4	0.902
	30 歳代	71	2.366	1	4	0.914
	40 歳代	89	2.261	1	4	0.750
	50 歳代	99	2.235	1	4	0.771
	60 歳代	141	2.370	1	4	0.726
	70 歳以上	120	2.421	1	4	0.797
職種まとめ	自営業・会社経営	42	2.286	1	4	0.891
	事務的職業	40	2.550	1	4	0.783
	事務系専門職・販売的職業	37	2.324	1	4	0.709
	通信系技術者、運輸系職業、サービスの・保安的職	46	1.913	1	4	0.755
	技術・技能系職業	65	2.270	1	4	0.807
	学生、その他	38	2.316	1	4	0.775
	専門職的職業	49	2.583	1	4	0.679
	公務員	22	2.591	1	4	0.796
	無職	106	2.353	1	4	0.792
	家事専業（無職の）	107	2.385	1	4	0.792
就業形態まとめ	自営・会社経営	59	2.424	1	4	0.835
	家族従業者	12	1.917	1	3	0.669
	正社員・正規職員	145	2.465	1	4	0.719
	派遣社員・契約社員	15	2.333	1	4	0.816
	パート・アルバイトなど	83	2.085	1	4	0.834
	嘱託、臨時・日雇い、内職など	16	2.333	1	4	0.816
	仕事をしていない	213	2.374	1	4	0.803
	その他	12	2.417	1	4	0.793

問9 差し支えなければ勤務形態をお聞かせください。

- | | | |
|--------------|----------------|-------------|
| 1. 自営・会社経営 | 5. パート・アルバイトなど | 9. 仕事をしていない |
| 2. 家族従業者 | 6. 嘱託など | 10. その他() |
| 3. 正社員・正規職員 | 7. 臨時・日雇いなど | |
| 4. 派遣社員・契約社員 | 8. 内職 | |

問10 通勤時間はどれくらいですか。

- | | | |
|-------------|-----------------|-----------------|
| 1. 通勤はしていない | 3. 30分～1時間未満 | 5. 1時間30分～2時間未満 |
| 2. 30分未満 | 4. 1時間～1時間30分未満 | 6. 2時間以上 |

問11 勤務年数はどれくらいですか。

- | | | | |
|-------------|---------|-----------|----------|
| 1. 仕事をしていない | 3. 1～4年 | 5. 10～14年 | 7. 20年以上 |
| 2. 1年未満 | 4. 5～9年 | 6. 15～19年 | |

問12 最後に卒業した学校は次の中のどれにあたりますか。

1. 中学校(尋常小学校、高等小学校などを含む)
2. 高等学校(旧制中学校、女学校、実業学校、師範学校、旧制高専などを含む)
3. 各種専門学校
4. 大学(短期大学、高専、大学院、旧制高校などを含む)
5. その他()

問13 現在、生活全般に満足していますか。

- | | |
|-------------------|------------------|
| 1. 満足している | 4. どちらかといえば不満である |
| 2. どちらかといえば満足している | 5. 不満である |
| 3. どちらともいえない | |

問 14 北九州市が住みにくいと思う点を3つ選んで下さい。

- | | |
|------------------|------------|
| 1. 通勤・通学時間が長い | 8. 人間関係が希薄 |
| 2. 労働時間が長い | 9. 物価が高い |
| 3. どこへいっても混雑している | 10. 家が狭い |
| 4. 子どもの教育環境が悪い | 11. 家賃が高い |
| 5. 自然が少ない | 12. 特にない |
| 6. 騒音が激しい | 13. その他() |
| 7. 活気がない | |

問 15 現在お住まいの地域に今後もずっと住みたいと思いますか。

- | | |
|---------------------|--------------|
| 1. 住みたい | 副問 1 へ進んで下さい |
| 2. 北九州市内の別の地域に住みたい | 副問 2 へ進んで下さい |
| 3. 北九州市以外の別の地域に住みたい | 副問 3 へ進んで下さい |
| 4. わからない | 問 16 へ進んで下さい |

副問 1 (問 15 で今後も住みたいと回答した人へ)

その理由を以下から一つだけ選んでください。

- | | |
|------------------|----------------------|
| 1. 親元・出身地だから | 5. 生活環境が気に入っているから |
| 2. 配偶者の親元・出身地だから | 6. 他の地域や都市に魅力を感じないから |
| 3. 土地や家屋があるから | 7. その他() |
| 4. 長年住みなれたところだから | |

副問 2 (問 15 で北九州市内の別の地域に住みたいと回答した人へ)

その理由を以下から一つだけ選んでください。

- | | |
|---------------------|---------------------|
| 1. 親元・出身地の近く | 5. 通勤・通学、仕事などに便利だから |
| 2. 配偶者の親元・出身地の近く | 6. 生活に便利だから |
| 3. 土地や家屋があるから | 7. その他() |
| 4. 市内の他の地域に魅力を感じるから | |

【日常生活のゆとりについてお聞きします】

問 17 生活の以下の面でゆとりを感じていますか。～ の各々についてゆとりが「十分ある」～「非常に乏しい」の当てはまる欄の番号に をつけて下さい。

	十分ある	ある程度ある	あまりない	非常に乏しい
全体的経済面でのゆとり	1	2	3	4
全体的時間面でのゆとり	1	2	3	4
全体的居住空間面でのゆとり	1	2	3	4
全体的精神面でのゆとり	1	2	3	4
生活を総合的に見た場合のゆとり	1	2	3	4

問 18 経済面でゆとりを感じていますか。～ の各々についてゆとりが「十分ある」～「非常に乏しい」の当てはまる欄の番号に をつけて下さい。

	十分ある	ある程度ある	あまりない	非常に乏しい
毎日の生活費	1	2	3	4
病気など万一の場合の経済的余裕	1	2	3	4
教育や子育て資金	1	2	3	4
老後の備え	1	2	3	4
交際費・娯楽費	1	2	3	4

問 19 日常生活でゆとりを感じていますか。～ の各々についてゆとりが「十分ある」～「非常に乏しい」の当てはまる欄の番号に をつけて下さい。

	十分ある	ある程度ある	あまりない	非常に乏しい
家事や育児のゆとり	1	2	3	4
家族の介護のゆとり	1	2	3	4
家族関係のゆとり	1	2	3	4
将来に関するゆとり	1	2	3	4
余暇時間	1	2	3	4

問 20 全体的なゆとりは主として何により不足していると感じていますか。

- | | |
|--------------------|-----------------|
| 1. 経済的ゆとり不足 | 4. 精神的ゆとり不足 |
| 2. 時間的ゆとり不足 | 5. ゆとり不足を感じていない |
| 3. 住居を含む居住空間のゆとり不足 | 6. その他 () |

問 21 長期間の景気の低迷からの回復が報道されていますが、どのような生活面で景気の回復を感じていますか。

- | | |
|------------------|---------------|
| 1. 賃金 | 5. 物価 |
| 2. 賃金を除く仕事の活動予算面 | 6. 旅行やレジャー |
| 3. 仕事における精神的ゆとり | 7. 景気の回復を感じない |
| 4. 仕事の取引先などの変化 | 8. その他 () |

【近所の人との付き合いや人との関係についてお聞きします】

問 22 現在、参加していたり、役員をしている活動が何かありますか。次の中からいくつでも選んでください。

- | | |
|---------------------|----------------------|
| 1. まちづくり協議会 | 10. 地域の同好会 |
| 2. 民生委員・児童委員 | 11. 会社のOB会 |
| 3. 老人クラブ(何歳でも加入可能) | 12. 公的な生涯学習 |
| 4. 町内などの自治会 | 13. まちづくり協議会の役員 |
| 5. 地区(校区)社会福祉協議会 | 14. 地区(校区)社会福祉協議会の役員 |
| 6. 趣味の同好会等 | 15. 町内などの自治会の役員 |
| 7. P T A | 16. 老人クラブの役員 |
| 8. ふれあいネットワークの福祉協力員 | 17. 特にない |
| 9. N P O やボランティア | 18. その他 () |

問 23 以下のような活動をしてみたいと思いますか。次の中からいくつでも選んでください。

- | | |
|------------------------|-------------------|
| 1. 地域活動の活性化に関わる活動 | 7. 自然や環境の保全に関する活動 |
| 2. 健康づくり・介護予防に関する活動 | 8. 食生活改善に関する活動 |
| 3. 高齢者や障害のある人の支援に関する活動 | 9. 男女共同参画に関する活動 |
| 4. 住んでいる地域の防犯や防災に関する活動 | 10. 教育や生涯学習に関する活動 |
| 5. 住んでいる地域の美化や清掃に関する活動 | 11. 子育て支援に関する活動 |
| 6. 住んでいる地域の相互の助け合いの活動 | 12. その他 () |

問 24 日頃の人とのつきあいで感じていることについて次の ～ に答えてください。「いつも感じる」～「まったく感じ ない」の中であてはまる番号に をつけて下さい。	い つ も 感 じ る	と き ど き 感 じ る	ど ち ら と も い え な い	あ ま り 感 じ な い	ま っ た く 感 じ な い
周りの人との関係は充実している	1	2	3	4	5
人との付き合いは十分できている	1	2	3	4	5
信頼できる人がいる	1	2	3	4	5
一員といえる仲間がいる	1	2	3	4	5
周りの人とは共通点が多いと思う	1	2	3	4	5
自分は外向性で気さくだと思う	1	2	3	4	5
近所の人とは相互に信頼し合っている	1	2	3	4	5
好きなときに人との付き合いがもてる	1	2	3	4	5
孤立していると感じる	1	2	3	4	5
自分は内向的で内気だと感じる	1	2	3	4	5
頼れる人がいないと感じる	1	2	3	4	5
人と知り合う機会がある	1	2	3	4	5
近所の人とは困った時に助け合える	1	2	3	4	5
自分だけ取り残されていると感じる	1	2	3	4	5
多様な情報に関心がある	1	2	3	4	5
親密な人がいる	1	2	3	4	5
近所の人との親密な付き合いがある	1	2	3	4	5
もっと自分の時間が欲しいと感じる	1	2	3	4	5
近所の人との関係をわずらわしいと感じる	1	2	3	4	5
自分は信頼されていると感じる	1	2	3	4	5

アンケートへのご協力を心から感謝いたします。ありがとうございました。

お手数をお掛けしますが、返信用封筒に入れて返送をお願いいたします。なお、差出人の住所氏名の記入や切手を貼る必要はありません。

2014年1月実施